

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



653-23



1200501570177

23

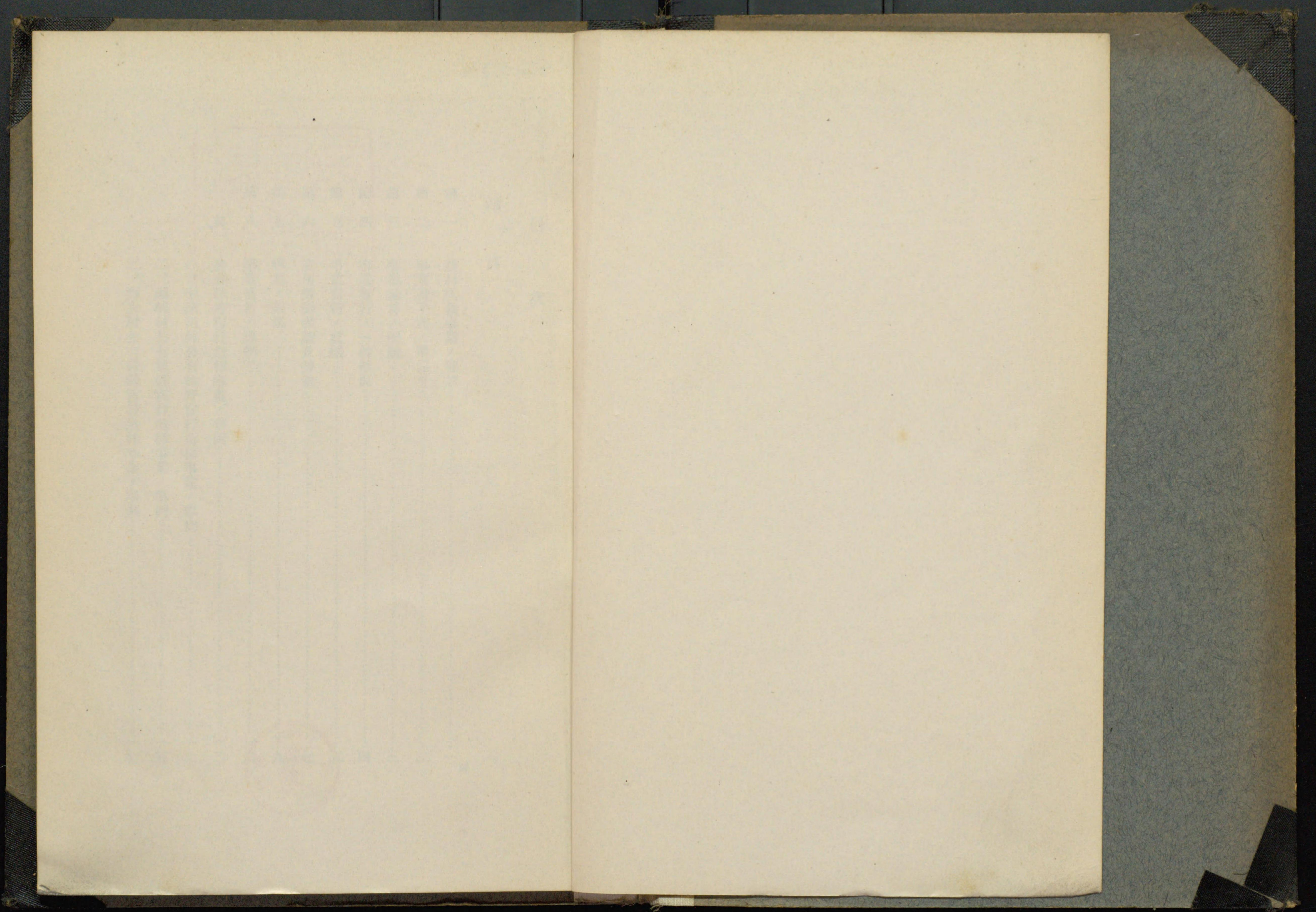
營林局署ノ實施セル匡救事業及效果

農林省山林局編

昭和八年八月

營林局署ノ實施セル匡救事業及効果

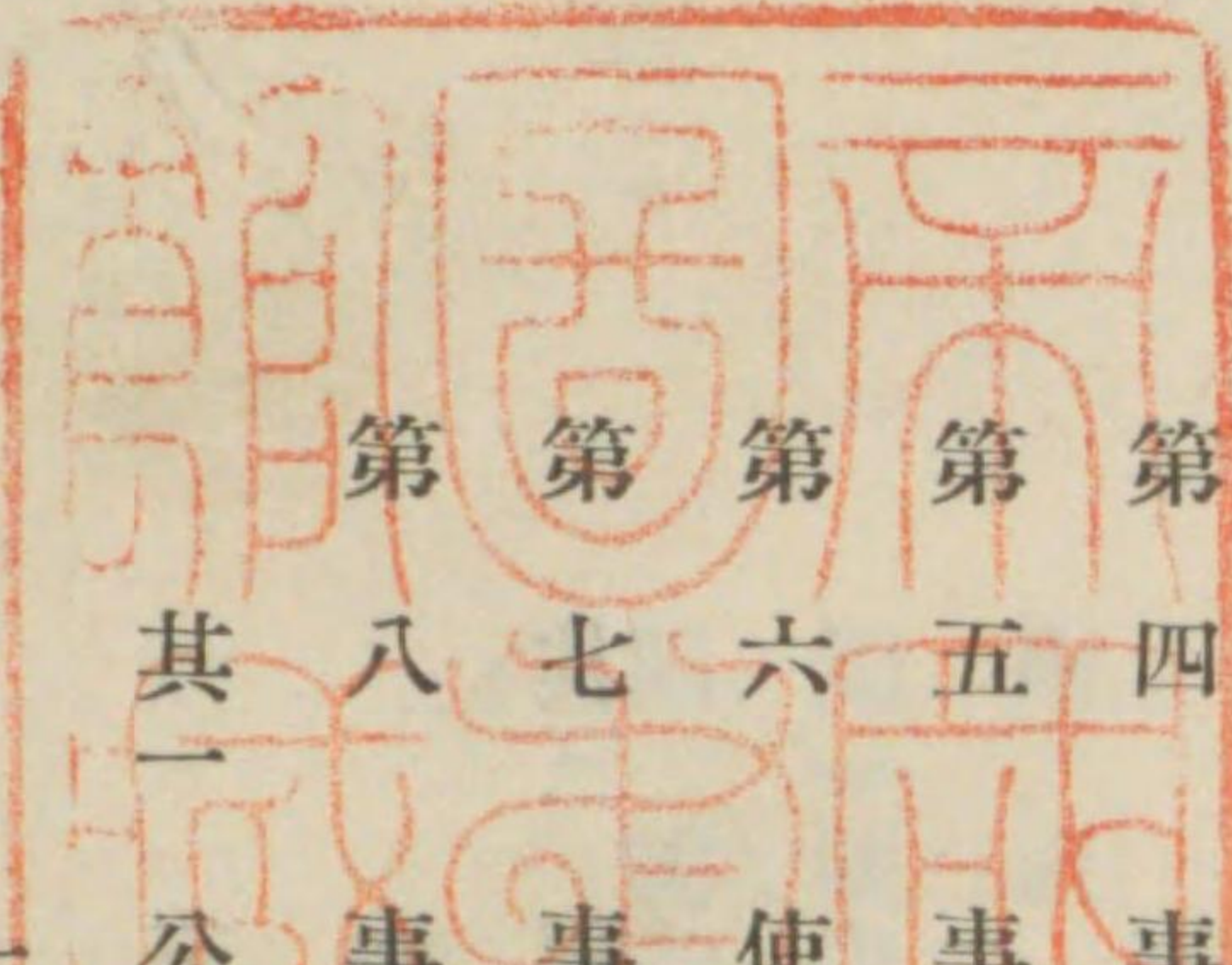
農林省山林局



目次

緒言

第一	農村匡救事業ノ豫算	一
第二	事業着手前ノ準備	二
第三	事業豫算ノ配賦	三
第四	事業實行ノ一般狀況	四
第五	事業實行ノ成績	五
第六	使用労働者數及勞銀	七
第七	事業ノ効果	九
第八	事業實行ノ事例	二
其一	公有林野官行造林事業ノ事例	二
	一、中津川村公有林野官行造林事業ノ事例	二
	二、城崎村公有林野官行造林事業ノ事例	五
	三、西方村公有林野官行造林事業ノ事例	七



其二 國有林林道開設事業ノ事例……………	二〇
一、立山國有林林道開設ノ事例……………	二〇
二、寒風澤林道開設ノ事例……………	二一
三、鬼丸澤林道開設ノ事例……………	二三
四、役内林道開設ノ事例……………	二四
其三 國有林野砂防設備事業ノ事例……………	二六
一、盛山外一國有林砂防設備ノ事例……………	二六
二、立谷澤川砂防設備ノ事例……………	二七
三、淺瀬川筋砂防設備ノ事例……………	二八
其四 國有海岸林砂防設備事業ノ事例……………	三〇
一、能代港町海岸林砂防設備ノ事例……………	三〇
二、村松村海岸林砂防設備ノ事例……………	三二
三、吹上濱海岸林砂防設備ノ事例……………	三五
其五 國有造林地撫育事業ノ事例……………	三六
一、鮫川村國有造林地撫育ノ事例……………	三六
二、田山村國有造林地撫育ノ事例……………	三八
其六 苗木ノ購入ガ地方産業ヲ振興セル事例……………	三九
一、秋田縣山林種苗同業組合ノ事例……………	三九
其七 匡救事業ガ農山村ノ自力更生ニ資セル事例……………	四〇
一、水田開墾ニ成功セル例……………	四〇
二、婦女子ノ組織セル自力更生團體ノ例……………	四一
三、共同貯金組合ノ例……………	四二

附表

- 第一號表、昭和七年度匡救事業實行成績表
- 第二號表、昭和七年度匡救事業勞働者數及勞銀調表

緒言

昭和七年九月開始セル農村匡救事業ハ、今尙繼續實施中ナリト雖、昭和七年度ノ豫定事業ハ、本年三月ヲ以テ一應完了セルヲ以テ、此ノ際營林局署ニ於テ實行セル本事業ノ經過、實績竝ニ其ノ効果ヲ録シ、以テ現在及將來ノ參考ニ資セムトシ、急遽上梓スルコト、セリ。資料未ダ充分ナラズ、且推敲ノ時日無カリシ爲、不備ノ點多キモ、是等ハ他日ヲ期シ、更ニ訂正増補スル見込ナリ。

第一圖 山形縣南置賜郡中津川村ノ官行造林地



本村ハ山形縣ノ最南端山間ノ僻陬ニ位スル一寒村ニシテ廣大ナル村有林ヲ有シ昭和三年以來402.47haノ契約地ニ對シテ、あかまつノ造林ヲ行ヒツ・アリシガ同七年匡救事業ノ實施ニ依リ特ニ經濟更生上著シキ效果ヲ見ルニ至レリ圖ハ其ノ地府濟ノ狀況ヲ示ス (本文記事參照)

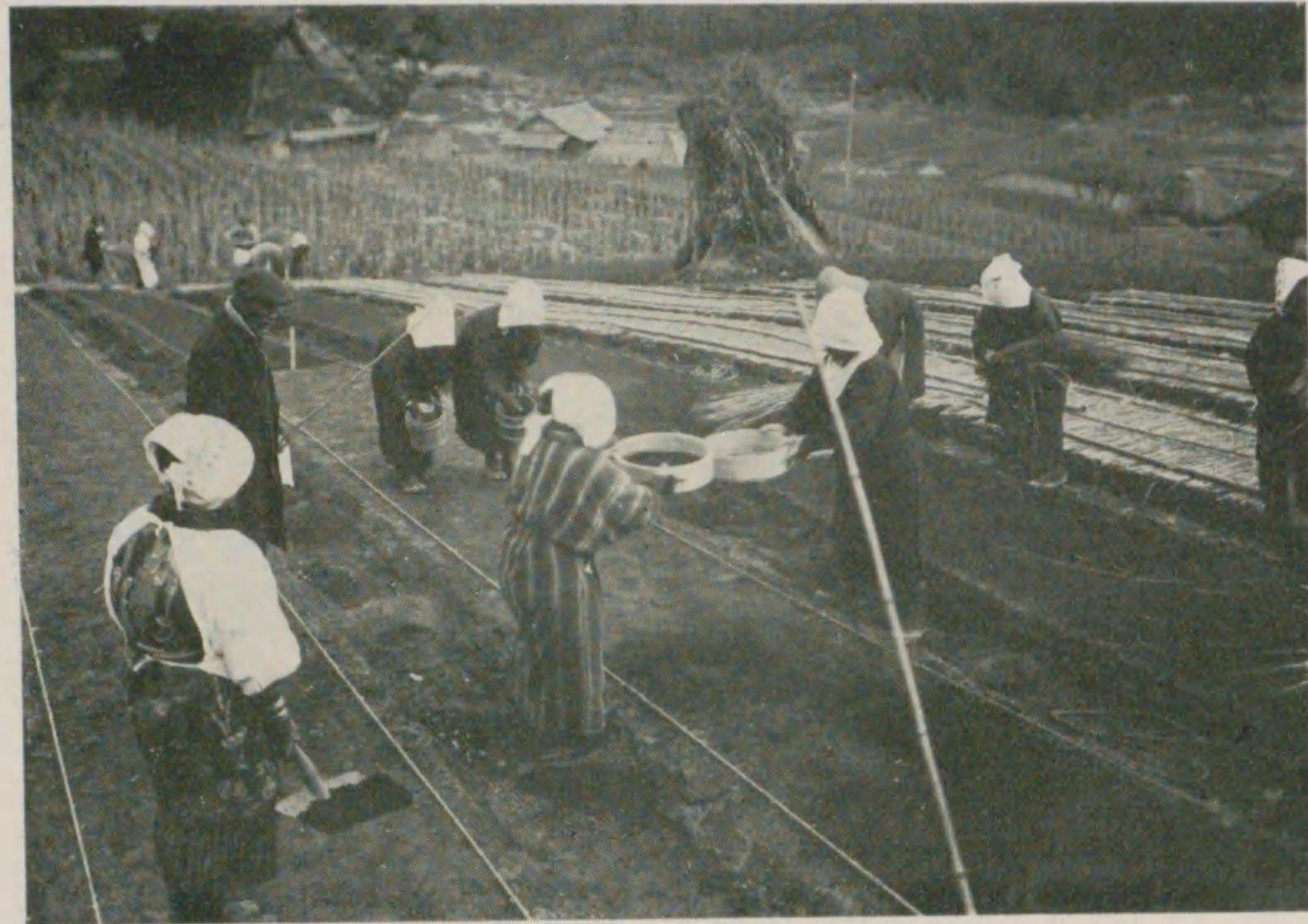
第二圖 宮崎縣宮崎郡瓜生野村ノ官行造林地



a. 造林實行前ノ狀況ニシテ永ク雜草、荊蕀ノ繁茂ニ放任セラレタルヲ見ル

山形縣南置賜郡中津川村ノ官行造林地ノ實況ニ關シテ、昭和三年以來、同七年匡救事業ノ實施ニ依リ、特ニ經濟更生上著シキ效果ヲ見ルニ至レリ。圖ハ其ノ地府濟ノ狀況ヲ示ス。

第四圖 愛媛縣上浮穴郡川瀬村久萬苗圃ノ播種事業



官行造林用苗木養成ノ爲播種ヲ行フモノニシテ婦女子ト雖モ從業ニ適シ農山村民ノ匡救上多大ノ効果ヲ擧ゲツ、アリ

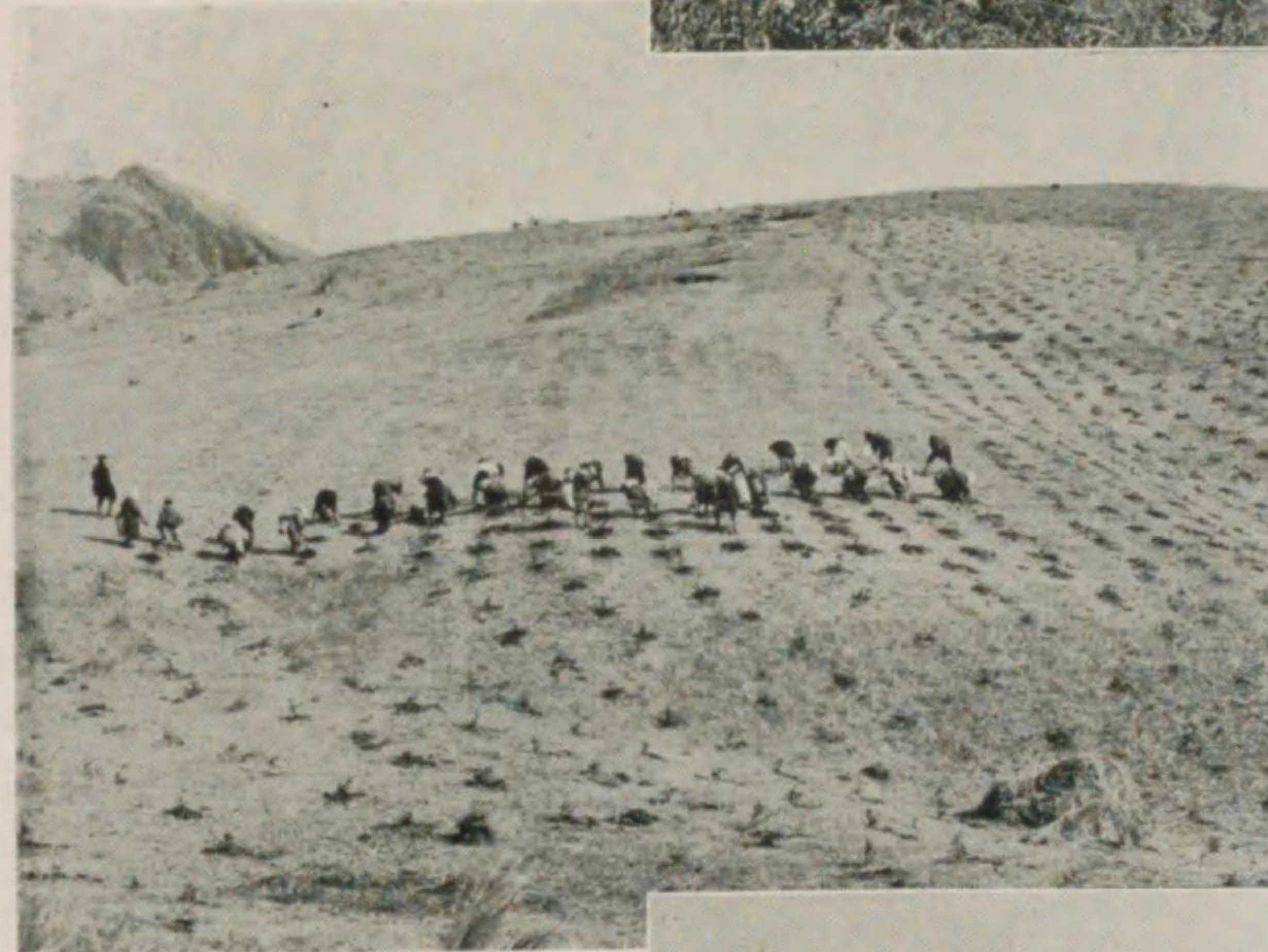
第五圖 佐賀縣西松浦郡大坪村倉谷苗圃ノ床替事業



官行造林用苗木養成ノ爲床替ヲ行フモノニシテ圖ハひのき一年生第一回床替中ノ狀況ナリ、幼苗ノ植付ハ婦女子ノ從業ニ適シ男子ノ作業ト相俟テ老幼男女普遍的ニ就業スルコトヲ得、匡救上ノ効果著シキモノアリ

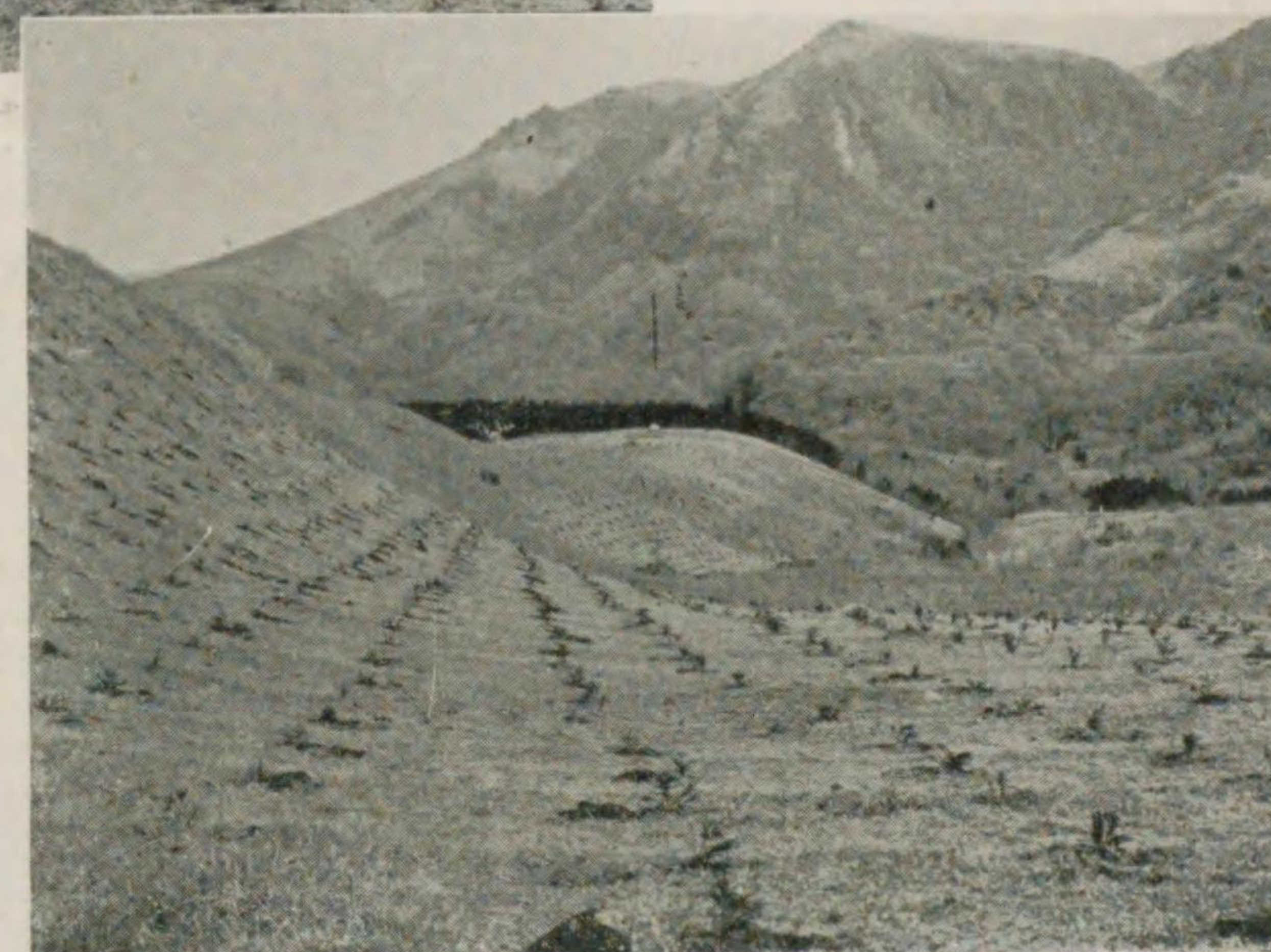


b. 契約面積 191.40 haニ對シテすぎ、ひのき、くろまつノ造林ヲ行ヒツ、アリ事業ノ進行ニ伴ヒ山野ノ面目ヲ一新スルニ至レリ圖ハ植付實行中ノ狀況ナリ



第三圖 大分縣直入郡久住町ノ官行造林地

a. 本造林地ハ從來全クノ草生地ニシテ徒ラニ荒廢ニ委セラレシガ、89.40haノ契約地ニ對シテすぎ、ひのき、まつ、ノ造林ヲ開始シ圖ハ其ノ植付實行中ノ狀況ナリ



b. 造林實行後ノ狀況ニシテ成績良好、將來ノ生産價値期シテ待ツベキモノアリ

第七圖 愛媛縣北宇和郡清滿村小屋ヶ谷國有林ノ撫育事業



a. ひのき造林地撫育事業實行前ノ狀況ニシテ枝打及間伐手廻トナリシ爲此儘放任スルニ於テハ下枝密生ノ儘永ク樹幹ニ附着シ生長遲レ樹形不良トナリ到底良材ヲ得難キヲ見ル



b. 撫育事業實行中ノ狀況ニシテ成林上極メテ必要ナルコト前述ノ如ク、加フルニ本事業ハ國有林所在各地ニ普ク散在シタル關係上匡救事業トシテ最適切ナリ



c. 同上 實行後ノ狀況ニシテ林相整備シ今後ノ生長著シキモノアルベシ

第六圖 宮崎縣宮崎郡瓜生野村ノ官行造林地



a. 簡易道路新設前ノ狀況ニシテ灌木、荊棘類叢生シ人夫ノ活動、苗木ノ運搬等ニ著シキ困難ヲ感ジタリ



b. 簡易道路實行中ノ狀況ナリ、本事業ハ施行方法簡單ニシテ特別ノ伎倆ヲ要セズ匡救上効果大ナリシモノナリ

第九圖 秋田縣山本郡能代港町後谷地國有林ノ海岸砂防



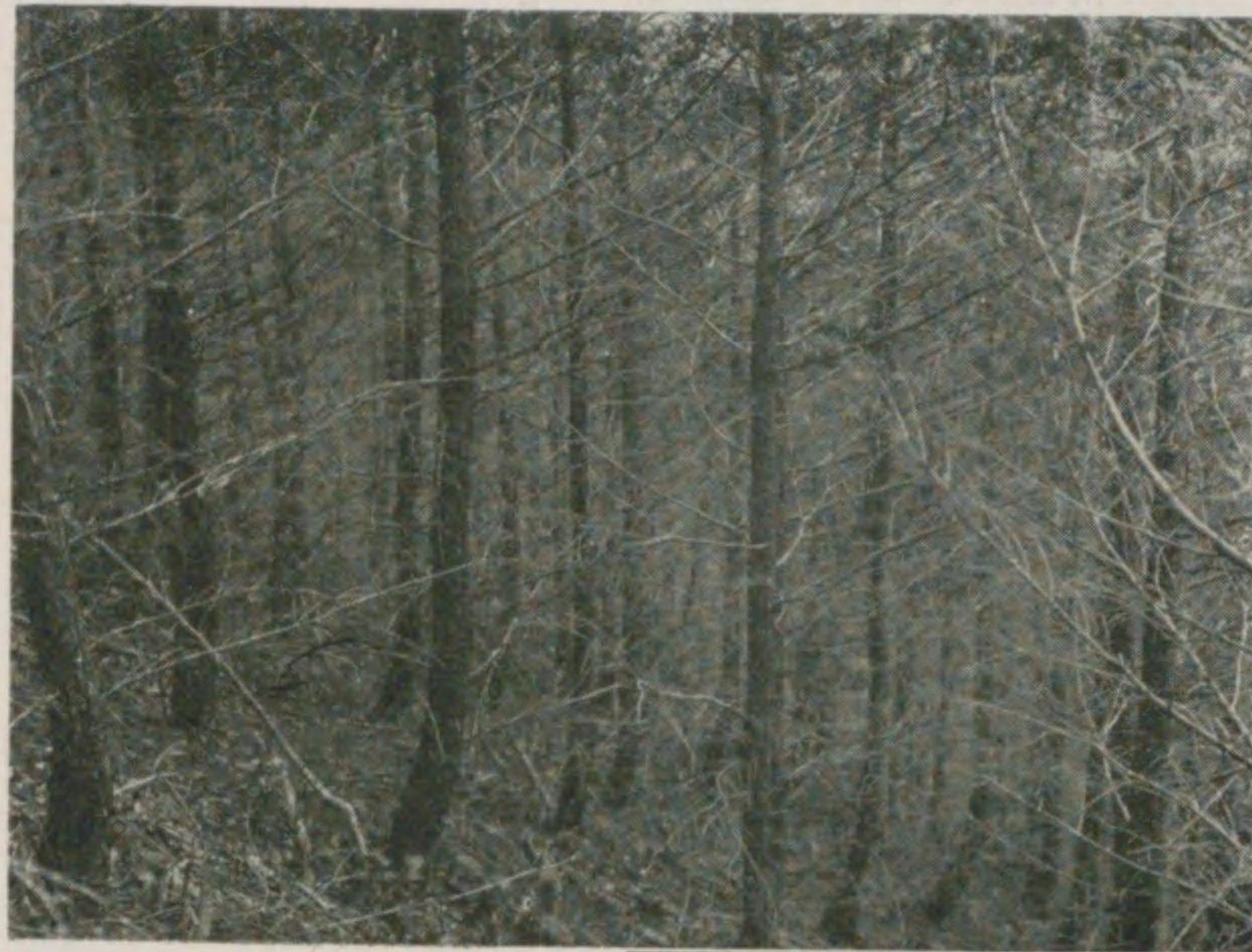
a. 砂防設備實行前ノ狀況ニシテ海岸砂丘ノ移動ノ慘狀ヲ知ルベシ

b. 移動砂丘ノ爲神社ノ鳥居ヲ破壞埋没シ附近一帯ノ松林ヲ埋メ危害ヲ背後ノ部落ニ及ボサントス

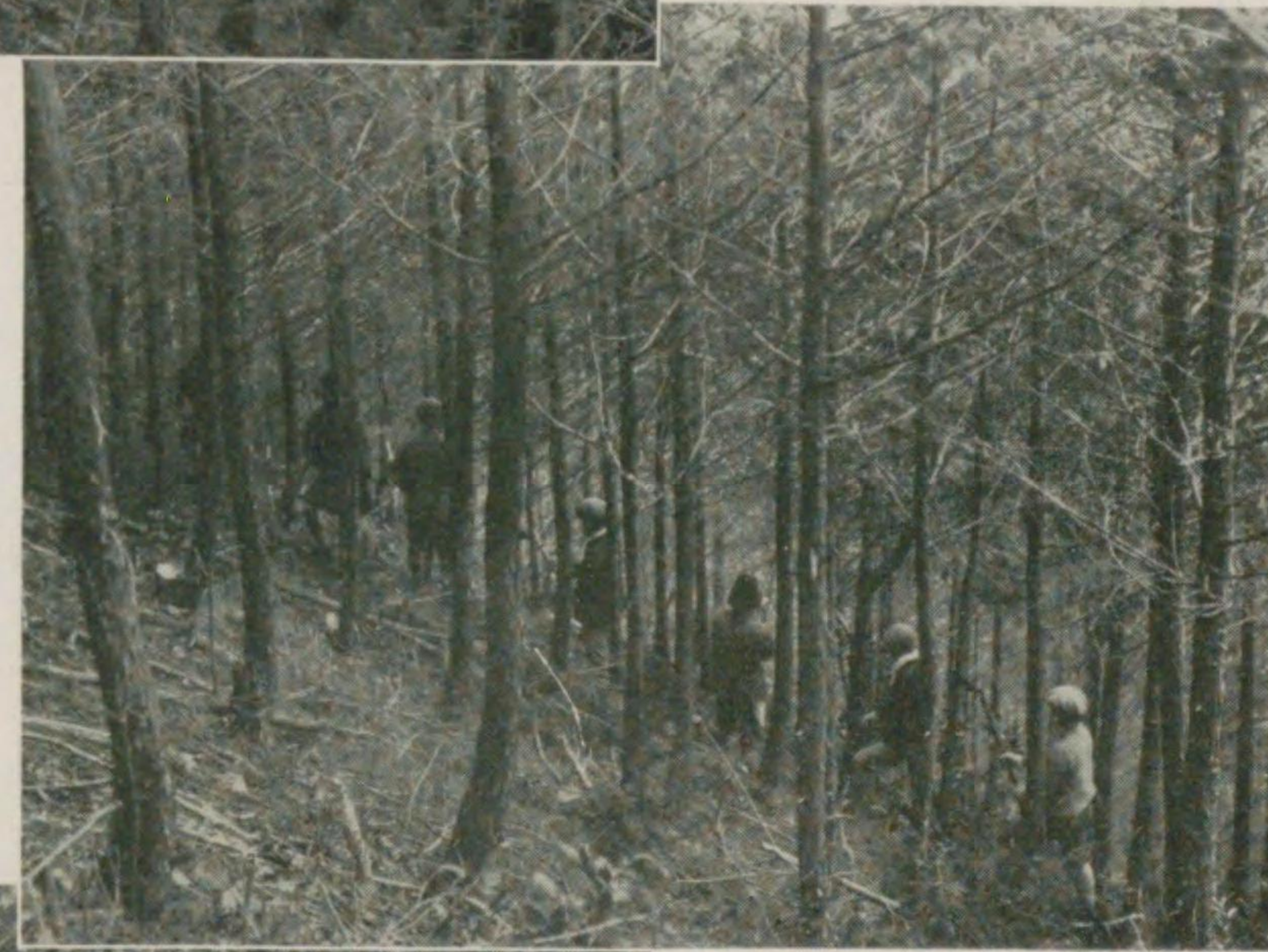


c. 前記箇所隣接地區ニ於テ七年前ころまつヲ植栽シタルモノ、既ニ樹高 2m ヲ超エ林相一變シツ、アルヲ見ル

第八圖 鹿兒島縣伊佐郡山野村十層國有林ノ撫育事業



a. ひのき造林地撫育實行前ノ狀況



b. 同上 實行中ノ狀況



c. 同上 實行後ノ狀況 a. b. c 共第七圖ニ於テ述ベタル事情ニ同ジ

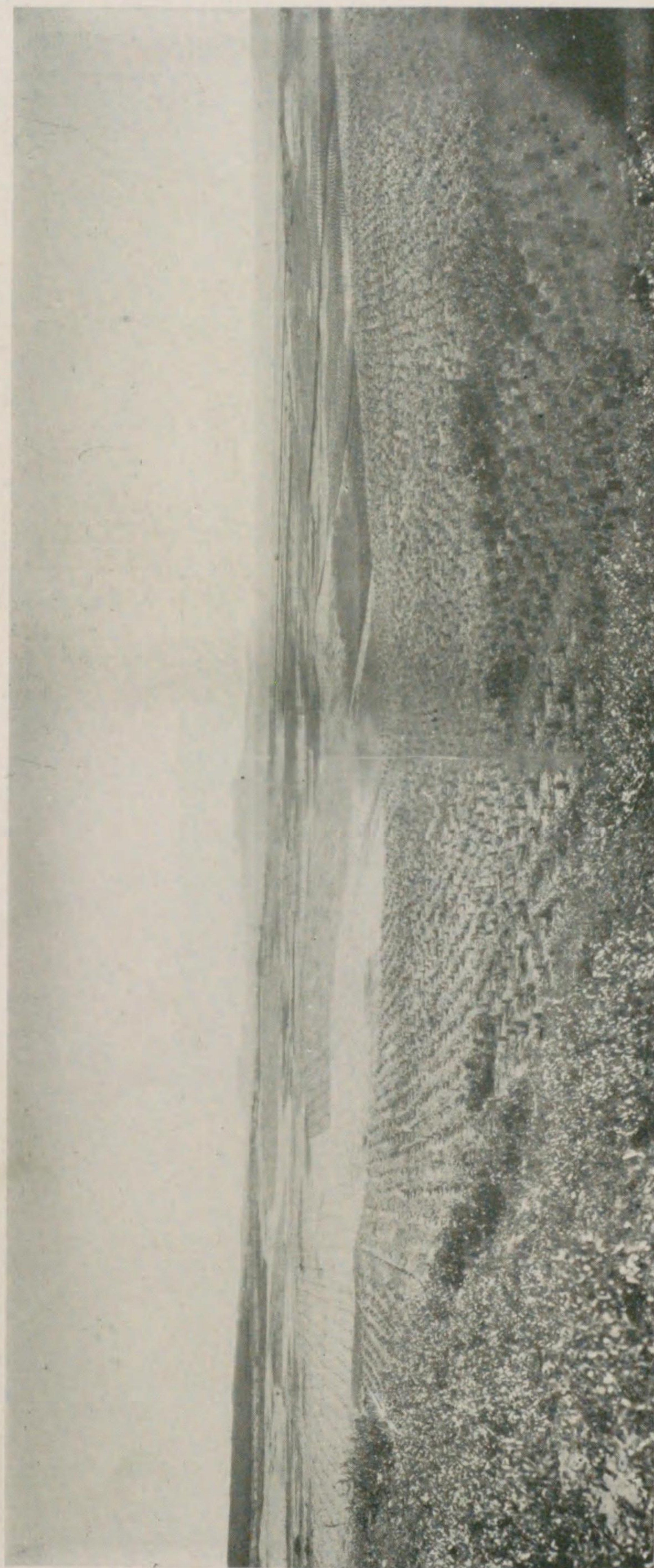
第十圖 茨城縣那珂郡村松村眞砂山國有林ノ海岸砂防



a. 飛砂ハ海岸ヲ稍離レタル松林ヲ侵シ之ヲ埋没シ更ニ超エテ部落、農耕地ニ及ビタリ



b. 立麥藁ハ植栽木保護ノ爲用ヒラレ米藁ト共ニ其ノ使用量夥シキ數ニ上リ之ガ買上ノ爲農家ハ勞銀收入ノ外多大ノ收益ヲ擧ゲ得タリ (本文記事参照)



d. 砂防垣、薪積等實行後ノ狀況ニシテ其後ノ成績良好ナリ、強カララズシテ成林ヲ見ルルニ至ルベシ (本文記事参照)



e. 砂防設備施行後ノ概観



c. 立藁ヲ終リ埋藁施行中ノ状況ニシテ埋藁ハ植栽木ノ水分保持及養料トシテ頗有效ナリ

第十一圖 鳥取縣岩美郡中ノ郷村柳茶屋國有林ノ海岸砂防



a. 海岸ヨリ直距一軒ニ在ルくろまつ林ハ飛砂激甚ノ爲樹幹ノ半ヲ埋没セラレ更ニ背後ノ部落ニ危害ヲ及ボスニ至レリ



d. 立藁終了後ノ状況



b. 砂防設備トシテ客土及植栽ヲ實行中ノ狀況ニシテ老幼男女ヲ間ハズ多數出役者アリ、夫々仕事ノ種類ニ應ジ適當ニ分擔從事セシメツ、アルヲ見ル



b. 砂防垣ヲ施設シテ先ヅ飛砂ノ安定ヲ圖リ次デ砂防植栽ヲ實行スルノ計畫ナリ、數年ヲ出デズシテ飛砂ヲ防止シ保安ノ目的ヲ達成スルニ至ルベシ

第十二圖 福岡縣遠賀郡芦屋町芦屋濱國有林ノ海岸砂防



c. 實行後ノ狀況ニシテ砂防垣ヲ施設シくろまつヲ植栽シタルカ成績良好ナリ、數年ナラズシテ綠化シ飛砂防止ノ効大ナルモノアルベシ



a. 砂防設備實行前ノ狀況ニシテ僅ニ砂草類ノ點生セルモノアルニ過キズ、部落及農耕地ハ年々飛砂潮風ノ害ヲ被リツ、アリ

第十四圖 秋田縣雄勝郡秋ノ宮村字役内國有林ノ林道



a 事業實行前ノ狀況ニシテ僅ニ人脊ニ依リ木炭ノ如キハ一俵宛ヲ脊負出シツ、アリ



b 實行後ハ手車ヲ通ズルニ至リ一車優ニ數俵ヲ搬出シ其ノ利便多大ナルモノアリ(本文記事参照)

第十三圖 秋田縣南秋田郡馬場目村馬場目國有林ノ林道



a 林道開設前ハ林産物其他諸物資ハ何レモ急坂路ヲ人又ハ馬脊ニ依リ辛ジテ搬出シツ、アリシ狀況



b 林道開設後ノ狀況ニシテ荷車ヲ通ズルニ至リ國有林産物ノ搬出上ノミナラズ地元産業ノ伸展ニ裨益スル所多大ナルモノアリ

第十六圖 山形縣東田川郡立谷澤村立谷澤國有林ノ林野砂防



a. 本地方ハ水源地崩壊ノ爲土砂ノ流失多ク、豁谷ヲ埋メ下流ニ及ボス被害大ナラントスルヲ以テ之ニ堰堤ヲ築設スルノ必要ヲ認メ實行中ノ狀況ナリ



b. 本事業ニハ主トシテ男人夫ヲ使役セルモ材料ノ運搬其他雜役ニハ多數ノ婦人子供モ從業スルコトヲ得匡救上多大ノ効果ヲ擧ゲタリ (本文記事參照)

第十五圖 岐阜縣吉城郡上糞村金木戸國有林ノ林道



a. 開設實行中ノ狀況ニシテ本箇所ハ飛彈ノ東北隅ニ位置シ急峻ナル深山ナル爲產物ノ搬出ノ如キ至難ノ狀態ナリシガ匡救事業ノ實施ニ伴ヒ地元山村民ノ從業ニ依リ實行シ得ルニ至レリ

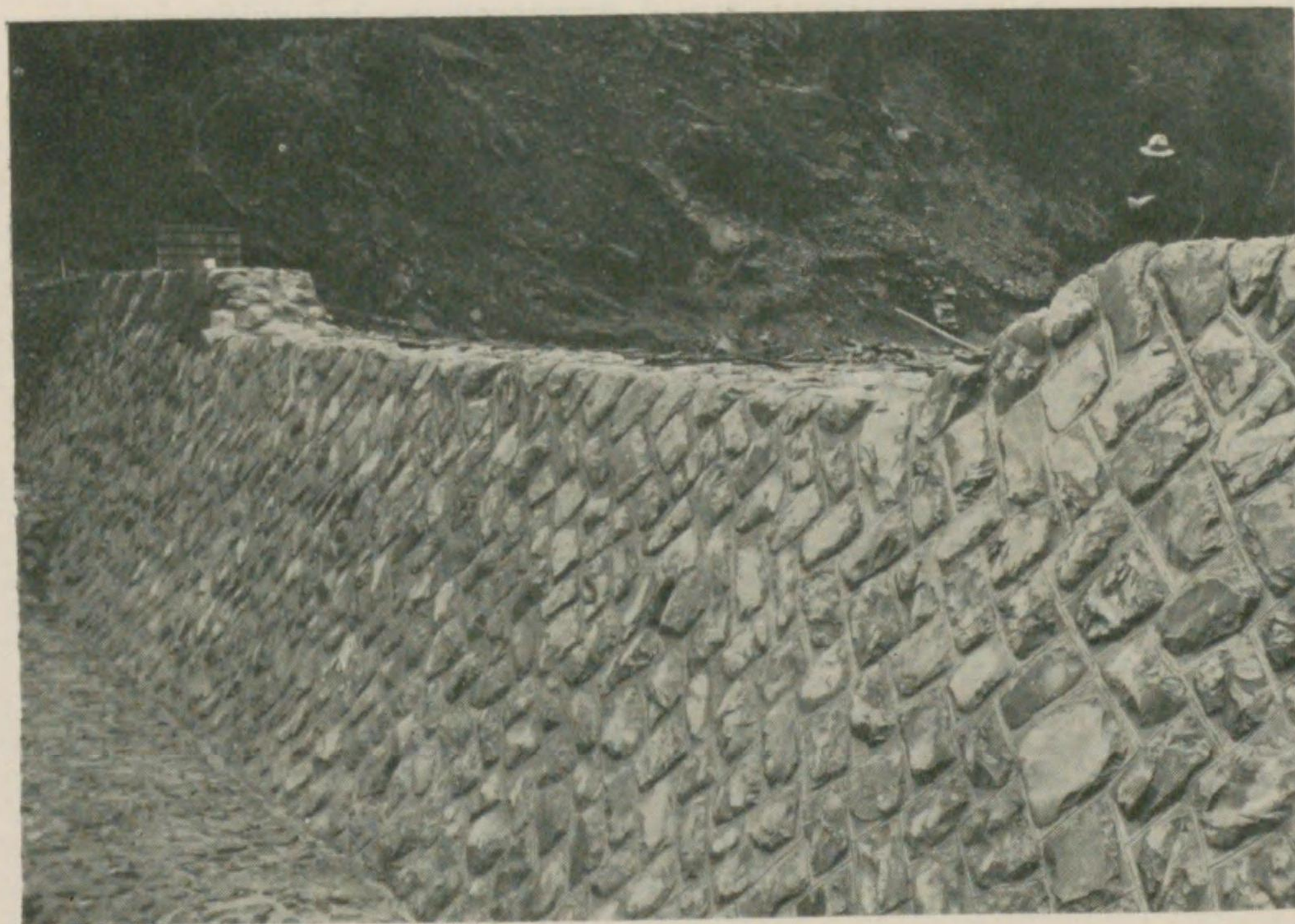


b. 同上車道竣工後ノ狀況ニシテ之ガ爲林產物搬出上ニ及ボス利益著大ナルモノアリ

第十七圖 高知縣幡多郡下川口村岩井谷山國有林ノ林野砂防



a. 事業實行前上流崩壊地ノ爲土砂ヲ押出シ河床ヲ埋メツ、アルノ狀況



b. 堰堤工事實行後ノ狀況ニシテ前圖説明ト同様匡救上ノ効果多大ナリシト共ニ今後治水上ニ及ボス影響甚大ナルモノアルベシ (本文記事參照)

營林局署ノ昭和七年度ニ實施セル匡救事業及効果

第一 農村匡救事業ノ豫算

昭和七年度營林局署ニ於テ、實施セル農村匡救事業、即チ公有林野官行造林及國有林野關係事業ノ豫算ハ、農林省所管臨時部農業土木費ニ屬シ、公有林野官行造林事業費、國有林林道開設費、國有林野砂防設備費、國有海岸林砂防設備費及國有造林地撫育費ノ五種目及之ニ伴フ事務費ヨリ成リ總額三百七萬七千二百九十九圓ナリ今事業別ニ其ノ經費内譯ヲ記載スレハ次ノ如シ

- 一、公有林野官行造林事業費
 - 事務費 一、二二〇、八九六圓
 - 事業費 三、九三一
- 二、國有林林道開設費
 - 事務費 一、一二六、九六五
 - 事業費 四〇三、九一八圓
- 三、國有林野砂防設備費
 - 事務費 四、二八九
 - 事業費 三九九、六二九
- 三、國有林野砂防設備費
 - 事務費 三八四、九七三圓
 - 事業費 八、八三七

事業費

三七六、一三六

四、國有海岸林砂防設備費

六〇〇、三四一圓

事務費

九、六九五^円

事業費

五九〇、六四六

五、國有造林地撫育費

五五七、一七一圓

事務費

八、五八四^円

事業費

五四八、五八七

合計

三、〇七七、二九九圓

第二 事業着手前ノ準備

國有林及公有林野官行造林關係ノ匡救事業ハ、概ネ山間地方ニ行ハル、爲メ、時期既ニ切迫シ、荏苒遷延スルニ於テハ、冬期ニ入り實行不可能トナル虞アルノミナラズ、一面地方農山村ノ窮乏ハ、一刻ノ猶餘ヲ許サル状態ナリシヲ以テ、山林局ニ於テハ豫メ豫算ノ公布ト同時ニ、直ニ事業ヲ開始スル準備ヲナシ、各營林局主務課長及土木主任技師ヲ本省ニ召集シ、七年八月十九日ヨリ同二十二日迄四日間協議會ヲ開催シ、本事業實施ニ關スル諸般ノ協議ヲ遂ゲ、以テ迅速且有效ニ之レガ實行ヲ圖ルベク萬遠算ナキヲ期セリ。次テ各營林局ニ於テハ、主務課長ノ歸廳ヲ待チ、直ニ管内各營林

署長ヲ召集シ、本事業實施ノ具體的實行計畫ニ付協議打合ヲ行ヒ、以テ遺漏ナキ準備ヲ整ヘ、各營林署ハ命令一下何時ニテモ、即時ニ事業ヲ開始シ得ル状態ヲ以テ待機セリ。

當時開會中ノ第六十三帝國議會ハ、九月二日ヲ以テ時局匡救ニ關スル追加豫算案ヲ可決シ、翌九月三日昭和七年度追加歳入歳出總豫算公布セラレ、次デ同六日ニ至リ本省大臣ヨリ事業豫定案ノ認可指令ニ接スルヤ、營林局署ハ一齊ニ事業ヲ開始シ、爾來計畫通着々進捗シ、昭和八年三月末日ヲ以テ何等ノ故障ナク、七年度豫定匡救事業ノ全部ヲ終了シ、依テ農山漁村民ノ救済ニ、甚大ナル効果ヲ舉ケ得タルハ同慶ニ禁エザル所ナリ。

第三 事業豫算ノ配賦

匡救事業豫算ノ配賦ハ、本事業實施ノ趣旨ニ鑑ミ、地方窮乏ノ程度ヲ參酌シ、農山漁村ノ住民ニ直接就業ノ機會ヲ與ヘ、普ク勞銀ヲ收得セシムル方針ヲ以テ立案セリ。即チ繭糸價ノ暴落ニ因リ、困窮セル養蠶地方ノ府縣、又就中昭和六年以來凶作二ヶ年ニ及ビ、農作物ノ收穫少ナク、甚ダシキハ皆無ニ近カリシ東北各縣ノ如キハ、其ノ疲弊困憊ノ程度、到底他府縣ノ比ニ非ラザルヲ以テ、山林局ニ於テハ是等ノ地方ニ對シテ、特ニ事業量ヲ増加シ、努メテ多額ノ事業費ヲ配賦スルコト、セリ。又營林局ニ在リテハ、其ノ管内市町村窮乏ノ實情ヲ稽查シ、一面地方廳ノ計畫ニ係ル匡救事業ノ關係ヲ參酌シ、最モ効果多キ手段ヲ選擇シ、且ツ可成廣ク之レヲ均霑セシムル目的ヲ以テ、關係町村

ニ適切ナル事業ヲ按配シ、以テ有効ナル実績ヲ收ムルニ留意セリ。

四

第四、事業實行ノ一般狀況

匡救事業ノ實行ニ當リテハ、其ノ實施ノ精神ニ鑑ミ、事業ノ全部ヲ直營トシ、地元民ヲ直接雇傭スル方法ヲ採リ、以テ中間搾取者ヲ排除シ、可成勞働者ノ收入ヲ多カラシムルニ努メタリ。即チ國有林林道開設及國有林野砂防設備ノ各事業ハ、營林局ノ直營トシ、公有林野官行造林、國有海岸林砂防設備及國有造林地撫育ノ各事業ハ、全部營林署ノ直營トシテ實行セリ。而シテ勞働者ノ使役ニ當リテハ、豫メ町村當局、方面委員又ハ區長等ト協議シ、可成生計困難ナル者ヨリ、順次使役スル方針ニ依レリ。然ルニ時恰モ不況ノ極限ニ達シ、農山村民ハ求ムルニ職ナク、收入ノ途全ク杜絶セル際ナリシヲ以テ、本事業ガ他ノ匡救事業ニ先ンジ、敏速ニ開始セラル、ヤ、旱天ニ慈雨ヲ得タルガ如ク歡喜シ争テ之レニ出役セリ。就中造林事業ハ特種ノ技能又ハ熟練ヲ要スル程度比較的少ナク、又老若男女ノ別ナク其ノ能力ニ應シ、各其ノ適所ニ使用シ得ル便アルガ故ニ、各地方共最モ之ヲ歡迎シ、出役者雲集シ却テ其ノ取捨選擇ニ困却スル状態ナリシモ、事情ノ許ス限リ努メテ之ヲ收容就業セシメ、賃金ノ支拂ハ事業中ト雖、可成數日毎ニ會計ヲ締メ切り、直ニ現金ヲ以テ支拂ヲナシ、尙特ニ生計困難ナル者ニ對シテハ、生活必需品ノ供給斡旋ヲナス等、極力勞働者救済ノ目的ヲ達成スルニ努メタリ。

營林署ニ於テハ各方面一時ニ多數ノ匡救事業ヲ實行スル爲、擔當員ノ不足ヲ來スコト明ナリシヲ以テ、事業繁多ナル營林署ニ對シテハ、豫メ營林局ヨリ應援者ヲ配置セルモ、前述ノ如ク出役勞働者多數殺到スルニ及ビ、益々事業擔當員ノ不足ヲ感ズルニ至リ、營林局ニ於テハ差繰リ得ル局員ハ、悉ク之ヲ營林署ニ派遣シ、現場監督ニ當ラシメ、以テ實行上違算ナキヲ期スル等、本事業遂行ノ爲一時營林局署ハ殆ント其ノ全力ヲ傾注スルノ状態ナリキ。幸ニシテ匡救事業ハ年度半ヲ過ギテ開始セルニ拘ラズ、些カノ齟齬蹉跌ヲ生ズルコトナク着々進行シ、豫定ノ如ク全部年度内ニ終了スルヲ得タルハ、之畢竟營林局署員ノ不眠不休ノ努力ト、地元民ノ眞摯ナル勞働トニ因ルハ勿論ナリト雖、一面統制アル實行機關ヲ各地方ニ有スル營林局署ニシテ始メテ能ク爲シ得タル所ナリト云ハザルベカラズ。

第五、事業實行ノ成績

昭和七年度匡救事業費ニ依リ、營林局署ニ於テ實行セル主ナル事業種類、分量及經費ヲ、費目別ニ示セバ次ノ如シ。

一、公有林野官行造林事業費、實行經費一、二二六、五九四圓

更新面積

一一、二一四陌

五

步道新設延長 二、三〇九、六七七米突
 搬路(牛馬道)新設延長 一七三、六四〇米突
 二、國有林林道開設費、實行經費 四三六、五九一圓
 車道新設延長 一二八、二四八米突
 牛馬道 " 二九三、二四二"
 木馬道 " 五八、四一六"
 步道 " 一、三一九、五二五"
 三、國有林野砂防設備費、實行經費 三七二、二二三圓
 石堰堤外六種 一一五箇所
 延長 二〇、〇五二米突
 四、國有海岸林砂防設備費、實行經費 五四一、九五三圓
 植栽面積 二、三八二陌
 諸工事延長 三六二、四六九米突
 " 面積 三三三陌
 " 體積 五、一〇六立方米突

五、國有造林地撫育費、實行經費 五六四、五五八圓
 蔓切面積 四八、三六六陌
 枝打面積 二〇、八七七陌
 除伐面積 六八、九八九陌
 倒木起面積 一九二陌

合計 三〇四一、九一九圓

尙之ヲ各地方別ニ分記スレバ附屬第一號表ノ如シ

第六、使用労働者數及勞銀

本匡救事業ニ就業シタル労働者ノ延數ハ、二百五十萬五千五百餘人ニシテ、之ニ支拂タル勞銀總額ハ實ニ百九十九萬九千五百餘圓ノ多キニ上レリ。今之ヲ各事業費別ニ示セバ次表ノ如シ。

事業費別	労働者數	延労働者數	勞銀	一人平均金	一人平均得
公有林野官行造林事業費	一〇九、三五八	八九二、九二八	六四一、七七五	〇、七三	五、八七
國有林林道開設費	三三、七九五	四四二、七七九	三五二、八八三	〇、八〇	一一、一〇
國有林野砂防設備費	七、三八三	二六、〇七二	三九、二五八	一、〇一	三二、〇五

國有海岸林砂防設備費	二四、一八四	二六七、三二	三四、〇三	〇、八〇	八、八五
國有造林地撫育費	八四、九三	六七八、四八	四七、五二	〇、六九	五、五五
計	二五七、七〇	二、五〇五、五一	一、九〇九、五二九	〇、七六	七、四一

事業費ニ對スル勞銀ノ割合ハ、事業ノ種類ニヨリ異ナリ、材料品ヲ多ク使用スル事業ハ勞銀比較的
 少ナク、材料品ヲ要セサル事業ハ勞銀ノ割合多シ。即チ前項記載ノ如ク、國有造林地撫育事業ハ、
 蔓切、枝打、除伐等ニシテ殆ンド材料品ノ購入ヲ要セサルヲ以テ、勞銀ノ割合八割四分ニ當リ、最
 モ高率ヲ示シ、國有海岸林砂防設備事業ノ四割ヲ最低トス。而シテ事業材料品ト雖モ洋灰、金肥等
 少許ノ工場製品ノ外ハ、繩、藁、萱、竹、小丸太、粗朶、齒朶、葭、苗木等ニシテ農家ノ生産物
 又ハ副業品其ノ大部分ヲ占ムルノミナラズ、其ノ數量莫大ナルガ故ニ、之ガ買上ニ依リ地方農山村
 ノ收入ニ資シタル額、亦決シテ鮮少ニ非ラズ。是等ノ物資ハ從來低級ナル燃料又ハ肥料トシテ利用
 セラレ、殆ント經濟的價值ニ乏シキモノナリシモ、之ガ買上ニヨリ事業地附近ノ一般農家ハ亦不時
 ノ現金ヲ收得シ、思ハザル恩澤ニ浴シタルモノ尠カラズ。

附屬第二號表ハ勞働者延數、勞銀等ヲ各府縣別ニ示セルモノニシテ之ニ依レバ老若男女ヲ通ジタル
 平均一人一日ノ賃金ハ七十六錢ニ當リ、一人平均ノ所得額ハ滋賀縣ノ十五圓八十九錢ヲ最高トシ、

差シテ多額ナリト云フヲ得ザルモ、元來國有林ハ概ネ山間僻陬ノ地ニ位シ、地元民ハ他ニ就業ノ途
 全ク無ク、且當時府縣町村等ノ匡救事業、未ダ着手セザルニ際シ、最敏活ニ一氣呵成ニ斷行シ、多
 年渴望セル農山村民ニ、確實ナル現金收入ノ機會ヲ與ヘ、以テ焦眉ノ急ヲ救ヒ得タル效果ハ其ノ金
 額ノ多少ニ拘ラズ、特ニ顯著ナリシヲ疑ハズ。

第七、事業ノ効果

營林局署ニ於テ實施セル匡救事業ニ依リ、地方農山村民ヲ直接救濟セル效果ノ一般ハ、他ノ匡救事
 業ニ於ケルト大同小異ニシテ、特異ノモノ少ナキガ如シト雖モ、相俟ツテ匡救上顯著ナル效果ヲ舉
 ゲタルモノ尠カラズ。今各方面ニ及ボシタル效果ノ大要ヲ摘録スレバ左ノ如シ。

(一) 納稅成績ノ向上

打續ケル不況ノ爲農山村民ハ、收入ノ途全ク杜絶セル結果、到ル所稅金ノ滯納甚ダシク、役場吏
 員、小學校教員俸給ノ支給ヲ停止セル地方亦少ナカラザリシガ、匡救事業實施以來漸次納入者増
 加シ、納稅成績一般ニ向上シツ、アリ。

(二) 負債ノ整理

農山村經濟ノ逼迫ハ、農民ニシテ多少ノ負債ヲ有セザル者ナキ状態ナルガ、不況ノ結果益々困憊
 シ、元金ハ勿論、利息ノ辨濟ニモ窮スル者少カラズ。然ルニ匡救事業ノ實施以來其ノ勞銀ヲ以テ

之ガ辨濟ニ當テ、又ハ利息ノ支拂ニヨリ辛フジテ財産差押ノ厄ヲ免レタルモノ、或ハ小作料ノ納付ヲナシ、醫師藥價ノ整理ニ當テ、又ハ數ヶ月間滯納セル電燈料金ヲ支拂ヒ、危ク斷線ヲ免レタル等ノ實例少カラズ。

又東北凶作地方ニ於ケル國有林野貸付地ハ、昭和六年ノ凶作以來疲弊其ノ極ニ達シ、料金納付ノ如キハ全ク豫期シ得ザル状態ナリシガ、七年九月匡救事業ノ開始セラル、ヤ、翌十月ニ至リ貸付料ヲ納入セル者ヲ生ジ、爾來未納額漸次減少シツ、アリ。

(三) 購買力ノ増加

收入ノ途ナキ農山村民ハ、物資ヲ購入スル資力ニ乏シク、商人ハ代金回収ノ目途ナキ掛賣ヲ爲サザル爲メ、地方商業ハ萎靡不振ヲ極メタルガ、匡救事業開始以來勞銀ノ取得ニヨリ購買力増加シ、食料品ハ勿論、肥料、農具、兒童學用品等ノ需要興リ、沈滞セル商況稍活氣ヲ呈シ、間接ニ地方商人ノ窮況ヲ打開スルノ結果ヲ見タリ。而シテ營林署ノ事業ニ出役スル勞働者ハ、其ノ收入ノ確實性ヲ認メラレ信用高ク、商人ハ安ンジテ掛買ヲ爲シ、進ンデ食料其他ノ必需品ヲ供給シツ、アリ。又東北凶作地方ニ於テハ政府ノ配給米アリタルモ、價格低廉ナルノミニテ無償給付ニ非ザルガ故ニ、無資力者ハ之ガ恩惠ニ浴スルヲ得ズ、空シク町村役場ニ山積スル状態ナリシ處、勞銀ノ取得ニ依リ漸ク之ヲ購入スルニ至リ、又鹿兒島縣大島地方ニ於テハ、米麥等ノ食料品ヲ求ムル資力ナク、僅ニ蘇鐵粥、芋食等ニヨリ生活スル者アリタルモ、匡救事業ニヨリ勞銀ヲ得、從來殆ンド食ニ堪エザル如キ粗食ヲ漸次改善シツ、アリ。

(四) 飲食兒童ノ減少、出席者ノ増加

不況以來農山村民ニシテ子弟ノ學用品ヲ購入シ得ザルモノアリ。又小學兒童ニシテ晝食トシテ芋、蕎麥團子、馬鈴薯、雜穀等ヲ携フルハ、寧ロ中ノ部ニ屬シ、全ク辨當ヲ携帯セズ晝食ヲ爲サル。飲食兒童少ナカラズ。中ニハ空辨當ヲ携ヒ飲食ヲ隱蔽セントスルガ如キ可憐ノ者アル等、發育旺盛ナル兒童ハ漸ク授業ニ堪エズ缺席スル者甚ダ多カリシガ、匡救事業開始後ハ是等ノ飲食兒童著シク減少シ、且出席者増加シ順調ニ復シツ、アリト云フ。

(五) 無盡講ノ再興

無盡講、頼母子講等ハ地方農山村ニ於ケル簡便ナル貯蓄金融機關ニシテ、從來相當ノ効果ヲ擧グ利用セラレタルモノナルガ、不況以來出金スル者無ク、全ク中止又ハ廢絶スルノ已ムナキ状態トナレリ。然ルニ匡救事業實施セラレ、現金收入ノ途開カル、ヤ、之ガ繼續可能トナリ、或ハ再興セムトスル氣運ヲ促進セリ。

(六) 公共事業ノ復興

匡救事業ノ需ニ依リ、中止セル社寺ノ祭典ヲ行ヒ、或ハ警鐘臺、消防器具器械ノ購入、小學校建

築費ノ釀金、共同墓地ノ改修又ハ青年團基本金ノ積立等ヲ爲シタル地方多ク、公共事業ニ寄與セル所少ナカラズ。町村財政ノ急迫ヲ緩和シ、農山村民生活上ノ危急ヲ、救済セル効果甚大ナルモアリ。而シテ其ノ影響ハ獨リ經濟上ノ効果ノミニ止マラズ、萎靡セル民心ヲ作興シ、活力ヲ與ヘタル好影響、亦看過シ得ザル効果ナリト認ム。

時局匡救事業ハ、昭和七年度ニ於テ僅ニ半ケ年間實行セルノミニシテ、昭和八年度ニ於テモ引續キ實行中ナリト雖、元ヨリ根本的救済策ニ非ズ、當面セル焦眉ノ急ヲ救済セル應急手段ニ止マリ、未ダ農山村民ノ生活上ニ餘裕ヲ生ズル程度ニ達セス、永年ニ亘ル農山村ノ疲弊ハ、到底一朝一夕ニシテ能ク恢復シ得ル所ニ非ザルヲ以テ、更ニ進ンデ農山村ノ經濟組織、運用ニ關シ根本的ノ振興對策ヲ樹立スルノ要アルハ勿論ナリ。現ニ政府ハ農村ノ負債整理組合法、農業動産信用法等ヲ制定シ實施中ナリト雖、今直ニ其ノ效果ヲ期待シ得ザルヲ以テ、此ノ際匡救事業ヲ中止スルニ於テハ漸ク曙光ヲ認メタル農山村ヲシテ、再ビ悲境ニ沈淪セシムル虞アルニヨリ、少クモ今後數年間ハ、尙本事業ヲ繼續施行スルノ緊切ナルヲ認ム。

第八、事業實行ノ事例

其一 公有林野官行造林事業ノ事例

一、中津川村公有林野官行造林事業ノ事例(寫眞參照)

村勢ノ概要

山形縣南置賜郡中津川村ハ、山形縣ノ最南端ニ位シ、福島縣界ニ接スル山間僻陬ノ一寒村ニシテ交通ノ便頗ル悪ク、現在自動車ヲ通ズル道路ナキ爲、總テノ物資ハ馱馬又ハ人背ニ依リ運搬セラレツ、アル實況ナリ。全村戸數三百三十戸、人口二千三百九十五人ニシテ、全戸數中三百九戸ハ農業ヲ營ミ、内四十五戸ハ自作農、百三十戸ハ自作兼小作農、他ノ百三十四戸ハ小作農ナリ。村民貧富ノ差ハ甚ダシカラザルモ不況ノ爲漸次生活困難ニ陥リ、現在一戸平均約八百圓ノ負債ヲ有シ、村ノ經濟狀態ハ頗ル窮迫シ居レリ。今本村ノ各種收入ヲ調査スルニ田畑ノ收入約六万八千圓、製炭收入一萬二千圓、養蠶收入六千圓、其ノ他ノ收入約一萬圓合計九萬六千圓ニシテ、一戸當平均二百九十圓ニ過キズ、辛シテ生計ヲ維持スルニ止マリ、負債ノ返済ハ勿論其ノ利子ノ支拂ニモ窮シ、益々疲弊困憊ニ陥リツ、アリ。

匡救事業ノ實施及其ノ效果

昭和七年九月匡救事業ノ開始セラレ、ヤ、米澤營林署ハ同年度既定事業ノ外、更ニ農業土木費、公有林野官行造林事業費三千五百二十五圓ヲ以テ、新植五十六陌、防火線三千四十三米突ノ事業ヲ實行シ、人頭數四百三十七人延人員二千八百二十三人ヲ使役シ、勞銀二千四百十五圓ヲ支拂ヒタリ。次デ村ニ於テモ經費四千圓ヲ以テ村道ノ開鑿ヲ實施セル結果、村民ハ失業ヲ免レ生活ノ脅

威ヲ脱スルヲ得タリ。今其ノ效果ノ主ナルモノヲ舉グレハ次ノ如シ。

失業者ノ救済

村内極貧者二十五戸ハ打續ク不況ニ雇傭スルモノナク、糊口ニ窮スル境遇ナリシガ、救済事業實施後ハ之ニ出役シ、一戸當六十圓乃至百二十圓ノ收入ヲ得、失業苦ヲ免レタリ。

納税ノ影響

匡救事業着手前ハ、税金滞納者百七十四人、金額五百九十三圓アリタルガ、實施後ハ滞納者百二十五人、金額四百十六圓トナリ約三割ヲ減少セリ。滞納者中ニハ極貧者ナルモ勞銀ノ取得ニヨリ完納セル者十六名アリ。

小學校教育ニ及ボシタル影響

本村小學校教員ノ俸給ハ、月四百五十四圓ナルガ、昭和六年中ハ定期ニ支給スルヲ得ズ、一ヶ月乃至一ヶ月半遲延セリ。然ルニ匡救事業實施後ハ、略定期支給ニ回復セリ。又實施前ハ缺食兒童八名、學用品購入不能ノ者二十一名アリタルモ實施後ハ何レモ皆無トナレリ。

醫療藥價ノ整理

本村ニハ常住ノ醫師ナク、隣村玉庭村ヨリ出張診療ニ從事シ居レルガ、診察料藥價等ノ不拂ハ匡救事業實施前ニ比シ約一割五分減少セリ。尙本村ハ交通不便ニシテ醫療ヲ受クルコト容易ナラザ

ル爲、賣藥ノ需要多ク、平均一ヶ年約三千圓ヲ賣藥行商人ニ支拂フ状態ナリシガ、不況ノ爲昭和六年ノ如キハ僅ニ二百圓ヲ支拂タルモ、事業實施後ノ昭和七年ハ八百圓ヲ支拂ヒタリト云フ。

貯蓄

郵便貯金額ニハ殆ンド影響ナキモ、簡易保險ハ實施前六十九口金額五十六圓ナリシガ、實施後ハ百五十口金額八十九圓ニ増加セリ。又本村ニハ從來ヨリ財團法人報徳會ナルモノアリ、會員七十名ヲ有シ、年額五圓ツ、出資スル規定ナルモ、會員ノ七割ハ出金スル餘裕ナカリシ處、事業實施後ハ未納者皆無トナレリ。本會員ノ大部分ハ本事業ノ出役者ナルヲ見レバ、之全ク匡救事業ノ結果ナリト認メラル。

購買力ノ増加

本村ニ於テ商業ヲ營ム者十三戸アリ、一戸一ヶ年賣上高一千五百圓乃至八千圓ニシテ總額約三萬四千圓ナリシガ、匡救事業着手以來購買力増加シ、金額ニ於テ二割五分ノ増加ヲ示セリト謂フ。

二、城崎村公有林野官行造林事業ノ事例

村勢ノ概要

福井縣丹生郡城崎村ハ、日本海ニ瀕スル漁村ニシテ戸數七百三十戸アリ、村内耕地少ナク平均一戸當二畝歩ニ過ギズ。昭和六年度ニ於ケル本村主要農作物ノ産額ヲ調査スルニ、米九百二十六石、

麥百五十石、繭一萬一千五百貫ニシテ此ノ收入合計四萬六千五百圓アレドモ、米ハ本村住民一ケ年ノ消費高五千二百石ノ僅ニ一割八分、麥ハ消費高十百石ノ二割一分ヲ産スルニ過ギズ、不足ノ米麥ハ之ヲ他町村ヨリ購入セザルヲ得ズ。漁業收入ハ大謀網ニ依ル純收入三萬五千圓、其他ノ漁業純收入約五萬八千圓アリ。近年大型漁船及新漁具ヲ使用スル遠洋漁業發達シ漁獲大ナルニ反シ、資本ニ乏シキ本村漁民ハ、依然トシテ收穫少ナキ近海漁業ニ依ル外ナク、又他ニ適當ノ職業ナキヲ以テ益々疲弊困憊スルニ至レリ。

昭和七年度ニ於ケル本村漁民ノ收入ハ、一ケ年ヲ通ジ約五六千圓ヨリ多キモ七十圓ヲ出デズ、一ケ月ノ平均純益ハ僅々五圓内外ニ止マリ、村民ノ過半ハ一日一食又ハ二食ヲ缺食スルヲ通例トシ、敢テ怪シム者ナキ悲惨ナル生活状態ニ陥レリ。從テ村税ノ如キ滞納甚シク、昭和六年度分二千圓、同七年度分六千圓、計八千圓ノ未納アリ。又縣補助ニヨリ毎月六回出張診療ニ従事セル開業醫ノ如キモ、藥價ヲ支拂ハザル患者多數ノ爲、遂ニ中止スルノ已ムナキニ至レリ。

事業ノ實施及其ノ效果

本村ノ窮狀前述ノ如キヲ以テ、昭和七年六月ニ至リ本村、村長ハ遂ニ意ヲ決シ、大阪營林局ニ對シ村民ノ窮迫ノ狀ヲ述べ、之ガ救濟ノ爲本村官行造林事業ノ増額實施ヲ請願シ來レリ。依テ同局ニ於テハ匡救事業ノ一部トシテ公有林野官行造林事業費二千四百八十五圓ヲ以テ、新植四四陌、步道七千三百六十八米突ノ事業ヲ起シ、人頭數五百四十九人、此ノ延人數二千七百四十四人ヲ使役シ、二千二百二十四圓ノ勞銀ヲ支拂ヘリ。即チ一人ノ平均所得ハ四圓五錢餘ニ過キザリシモ、既往造林地百三十陌餘ノ撫育事業ハ、既ニ同年七月ヨリ繼續施行シツ、アリタルヲ以テ、兩者合計約四千餘圓ノ勞銀ヲ投下セルモノナリ。本村ニ於テハ斯カル多額ノ現金收入ヲ得ル機會ナク、女八日間ノ勞銀四圓八十錢ハ、略漁夫一ケ月ノ收入ニ匹敵シ、本事業ニヨル勞働收入ガ、一家ノ主要收入トナレル家庭甚ダ多ク、救濟上ノ效果顯著ナリ。勞銀ノ大部分ハ食糧其他日用品ノ購入ニ支拂ハレ、納稅成績亦良好トナリ、匡救事業實施後ハ滞納者百五十名ヲ減ジ、未納額ノ内二千二百二十圓ハ納入濟トナレリト云フ。

三、西方村公有林野官行造林ノ事例

村民疲弊ノ狀況

鹿兒島縣大島郡西方村ノ官行造林事業ニ出役セル勞働者ハ、主トシテ同村篠川部落及其ノ附近ノ住民ナルガ、篠川部落ハ戸數百五十戸、海岸ニ位スル小部落ニシテ耕地ニ乏シク、漁業ニ於テモ僅ニ内海ニ行フ小規模ノモノニシテ漁獲少ナキガ故ニ、部落民ノ大部分ハ僅少ナル米作及甘蔗栽培ニ依リ、粗糖ノ製造ニ従事スル外、山林ニ入り製炭業ヲ營ミ、婦女子ハ本地方ノ主要産物タル、大島紬ノ生産ニ従事シツ、アリ。然ルニ一般財界ノ不況ハ、大島紬、黑砂糖ノ暴落トナリ、木炭

亦甚ダ低廉ナル爲、現金收入著シク減少シ、部落民ノ生活上ニ一大脅威ヲ來セリ。加フルニ島外ニ出稼セル失業者ハ、續々歸郷セルヲ以テ益々村民ノ生活ヲ困難ナラシムル状態ナリ。然レドモ本村ニ於テハ他ニ求ムベキ職ナキニヨリ、篠川部落民ハ官行造林ニ依リ就業ノ機會ヲ得ント欲シ、自ラ進デ部落關係ノ村有地ヲ提供シ、官行造林實施申請ヲ村當局ニ要望セル結果、昭和七年三月ニ至リ造林契約ヲ締結シ、今回初メテ造林事業ニ着手シタルモノナリ。

匡救事業ノ實施

昭和七年九月匡救事業ノ一部トシテ、本村公有林野官行造林地ニ對シ、經費二千三十七圓ヲ以テ新植三十八陌、及步道開設七千四百四十九米突ノ事業ヲ開始スルヤ、部落民ノ熱烈ナル希望茲ニ實現シ、爭テ出役シ却テ其ノ採否ニ困惑スル状態ナリシガ、結局一戸一人ニ制限シ、或ハ交代出役ト爲セリ。然ルニ出役希望者尙多カリシカバ、遂ニ造林小屋ノ増築ヲ爲シ、可成多數ノ人夫ヲ收容スルニ努メタルモ、中ニハ自ラ假小屋ヲ建テ宿泊シ出役スル者ヲ生ゼリ。斯クテ人頭數九十五名、延人數二千七十人ヲ本事業ニ使役シ、勞銀壹千六百三十八圓ヲ支拂ヒタルヲ以テ、平均一人ノ所得ハ十七圓餘ニ上レリ。

事業實施ノ効果

本事業開始當時ノ税金滯納者九十人、税額八百圓アリシモ、實施後ニ於テハ滯納者二十人ニ減ジ、滯納税額百圓餘ニ減少セリ。元來村税ノ滯納ハ當地方一般ノ状態ニシテ、篠川部落ニ在リテモ一戸平均十圓内外ノ滯納アリ、爲ニ小學校教員ノ如キモ數ヶ月間俸給ヲ支給セラレズ。其ノ結果ハ子弟教育上ニモ惡影響ヲ及ボシ、教員ヲ通ジテ小學校兒童ニ、家庭ノ納税ヲ督促スルガ如キ手段ヲ講ジタルモ、收入皆無ナルニ於テハ如何トモスル能ハズ、却テ兒童ニ惡感ヲ與へ、缺席スル者ヲ生ズル等、教育上寒心スベキ状態ナリキ。然ルニ本事業ノ實施セラル、ヤ、部落民ハ舉テ勞働ニ從ヒ各自相當ノ賃金ヲ得、一面徵税ニ苦心セル村當局ハ、賃銀支拂日ニ、吏員ヲ派遣シ徵税スル希望ヲ述べ、出役者側ニ於テモ別ニ異議無カリシ爲、營林署ノ支拂日毎ニ、賃銀ノ幾分ハ好感ヲ以テ即座ニ納入セラレタルガ故ニ、滯納ノ大部分ハ漸次整理セラレ、村政上ハ勿論、子弟教育上ニモ好影響ヲ與ヘタリ。

部落民ノ悲惨ナル生活状態ハ、到底他ノ想像シ能ハザル所ニシテ、耕地乏シク米麥ノ自給不能ナル本村ニ於テハ、一部有産者ノ外ハ之ヲ求ムル資力ナク、自作ノ蘇鐵芋等ヲ混ジタル粥食ニ依リ、僅ニ餓ヲ凌グ状態ニシテ、全ク衣食ニ窮セシ者、約五十戸ニ上リタルガ、本事業實施後ハ勞銀ヲ以テ米麥ヲ購入シ、甚ダシキ粗食ヲ改善セル者多ク、衣食ニ窮スル者亦著シク減少セリ。

以上ノ外負債ノ整理、無盡講ノ復活、農具購入、其ノ他ニ使用セラレタル効果ハ、他ノ事例ト同

様ナリ。

二〇

其二 國有林林道開設事業ノ事例

一、立山國有林道開設ノ事例

村民窮乏ノ狀況

富山縣中新川郡立山村ハ、立山西麓ニ位スル山村ニシテ、耕地少ナク村民ハ主トシテ製炭其ノ他ノ林業ニ従事シ、或ハ出稼ニ依リ得タル收入ヲ以テ生計ヲ立テツ、アリ。地勢ノ關係上、降雪早ク冬期三ヶ月餘ハ積雪ノ下ニ蟄伏シ、徒食セザルヲ得ザル狀況ナルニ、不況以來收入ノ途杜絶シ、失業ニ苦シム者續出セリ。同村ニハ目下内務省ノ立山砂防工事及縣營水力電氣工事アリト雖、使役人夫ニ制限アルト、且ツ事業ノ性質上一般村民ノ勞働ニ適セザルノ憾アリ。本村中最モ困憊セルハ、大字芦峯寺ニシテ、本林道所在國有林ニ接シ、耕地極メテ狭少ナルヲ以テ、農産物ノ收穫ハ僅ニ副食物ヲ供スルノ程度ニ過キズ、從テ婦女子ノ勞働ニテ足リ、食糧ノ大部ハ、他ノ方面ヨリ購入スルノ外ナキ有様ナリ。男子ハ製炭業、夏季ハ立山登山案内ヲ年中行事トナシ居レルガ、近年登山者ノ減少ニ連レ案内人ノ需要少ナク、又製炭業ハ炭價低落ノ爲、收支償ハズ窮乏益々加ハリ、此儘推移スルニ於テハ、來ルベキ積雪期間ニハ如何ナル慘狀ニ陥ルヤ、甚ダ憂慮スベキ狀態ナリキ。

匡救事業ノ實施

此ノ時ニ當リ富山營林署ハ、匡救事業トシテ經費二千二百九十七圓ヲ以テ、延長二萬二千八百三十八米突ノ步道開設ヲ計畫シ、七年九月ヨリ事業ニ着手セル所、失業ニ喘グ村民ハ競テ出役セシヲ以テ、村主腦者ト協議シ、先ヅ生計最モ困難ナル者ヨリ、順次就業セシムル方針ニ依リ、人頭數五十名、延人數千九百二十人ヲ使役シ、賃銀二千二百六十四圓ヲ支拂ヒタリ。即チ平均一人ノ所得ハ、四十五圓ノ多キニ上レリ。

事業實施ノ効果

本村ハ前述ノ如ク冬季降雪期間ハ、蟄居スル外ナキヲ以テ、豫メ食料ノ準備ヲ要スルガ故ニ、匡救事業ニ依リ得タル勞銀ノ半ハ之ニ充ツル爲貯蓄セラレ、他ノ一半ハ即時必要ナル米噌ノ購入、及負債整理ニ費サレ、生活上ノ脅威ヲ免レタルハ、顯著ナル効果ナリト認ム。

尙從來ノ立山登山路ハ、嶮難ニ過ギ強壯ノ男子ニ非ザレハ、登山ヲ躊躇スル者多カリシガ、本林道ノ開通ニ依リ、通行容易トナリタルヲ以テ、將來一般登山者ノ數増加スベク、從テ村民ノ受クル間接ノ利益亦少カラザルベシ。

二、寒風澤林道開設ノ事例

位置及地元ノ狀況

二一

本林道ハ宮城縣加美郡宮崎村寒風澤國有林ニ通ズルモノニシテ、寒風澤、北永志田等ノ四部落、戸數八十、人口約七百餘ハ其ノ受益範圍ニ屬セリ。

是等ノ部落ハ奥羽脊梁山脈ノ東側ニ位スル山間ノ僻地ニシテ、耕地ニ乏シク米作ハ漸ク自給シ得ル程度ニ過ギズ、住民ノ大部分ハ製炭ヲ唯一ノ生業トセリ。然ルニ其ノ通路ハ勾配急ニシテ高低甚ダシキ羊腸タル一條ノ山路アルノミナルヲ以テ、木炭ノ搬出ハ人肩ニ依ルノ外ナク、部落迄一日二回ノ搬出ハ容易ノ業ニ非ズ、徒ニ運搬費ノミ嵩ムヲ以テ、炭價暴落セル當時ニ在リテハ一俵ノ利益二十錢ニモ達セズ、一日ノ收入ハ僅ニ三十錢内外ニ止マリ、收支償ハザルヲ以テ、唯一ノ生業タル製炭ヲモ中止スル者ヲ生ジタルモ、他ニ有利ナル何等ノ産業無キガ故ニ失業スル者續出セリ。

林道ノ開設

昭和七年九月青森營林局ハ、匡救事業トシテ經費九百三十六圓ヲ以テ、延長千四百七十二米ノ牛馬道開設ニ着手セリ。然ルニ本林道ノ開通ハ當ニ就業ニヨル收入アルノミナラズ、直ニ部落民ニ重大ナル利益ヲ齎ス關係アルヲ以テ、各部落民ハ進ンデ事業ニ出役シ、其ノ完成ニ献身的努力ヲ爲セルハ、他ニ其ノ例ヲ見ザル所ナリキ。斯クシテ人頭數五十名延人數九百七十七人ヲ使役シ、勞銀トシテ八百五十七圓ヲ支給セリ。即チ平均一人ノ所得ハ十七圓餘ニ當レリ。

事業實施ノ効果

本事業ハ經費僅少ナリシヲ以テ、勞銀ノ投下ニヨリ直接住民ノ生活上ニ資シタル効果ハ、敢テ大ナリト云フヲ得ザルモ、其ノ間接ニ生ズル部落民ノ利益ハ、永遠ニ亘ルモノニシテ、本林道ノ開設後ハ、村道ノ改修ト相俟テ、宮崎本村ヨリ駄馬ヲ通ジ、一日容易ニ數回ノ往復ヲ爲シ得ベク、一般物資ノ運賃ヲ輕減セル利益ハ、看過シ得ザル効果ナリト云フベシ。

三、鬼丸澤林道開設ノ事例

位置及村ノ現況

本林道ハ岩手縣氣仙郡世田米村鬼丸澤ノ國有林ニ開設セルモノナリ。世田米村ハ氣仙郡ノ西隅ニ位スル山間ノ僻村ニシテ平地ニ乏シク水田ノ如キ極メテ少ナキヲ以テ、米ノ大部分ハ之ヲ他ヨリ購入セザルヲ得ズ、住民ノ多クハ少量ノ白米ヲ混ジタル稗ヲ常食トスル状態ナリ。然ルニ昭和六年以來凶作ニケ年ニ及ビ、加フルニ不況益々深刻ヲ極メ、本村ノ主要産物タル木炭價格ハ日ニ慘落ヲ續ケ、收支償ハザル爲メ遂ニ製炭業ヲ中止シ、徒食スルノ已ムナキニ至リ、村民ノ疲弊ハ一層加ハレル狀況ナリキ。

林道ノ開設

昭和七年九月青森營林局ハ、本國有林ニ對シ、經費千八十九圓ヲ以テ、牛馬道延長二千米突ノ匡

救事業ヲ起シタル所、久シク失業ニ惱メル村民ハ、歡喜シテ工事ニ從ヒ、各自應分ノ賃銀ヲ收メ、救濟ノ恩惠ニ浴スルコトヲ得タリ。

事業實施ノ効果

本事業ニ使役セル人頭數七十四名、延人數千二十七人ニシテ、之ニ對シ勞銀九百十七圓ヲ支拂ヒタルヲ以テ、平均一人ノ所得ハ十二圓餘ナリ。

本事業ハ其ノ經費多カラザリシヲ以テ、地元民ニ與ヘタル直接ノ効果ハ大ナリト云ヒ能ハザルモ、本林道竣工後間接ニ受クル地元民ノ利益ハ、相當大ニシテ林產物ノ運搬ハ勿論、一般部落民ノ交通上ニ、一大革新ヲ來タシ、木炭運賃ノ如キハ、從前ノ一割ニモ達セズ、收入頓ニ増加セリト云フ。

四、役内林道開設ノ事例(寫眞參照)

位置及村民ノ窮狀

役内林道ハ秋田縣雄勝郡秋ノ宮村大字役内ノ國有林ニ開設シタル林道ナリ。秋ノ宮村ハ秋田縣ノ東南隅ニ位シ宮城、山形兩縣ニ接シ三面高峻ナル山岳ニ圍マレタル一寒村ナリ。村民ハ農蠶業、製炭業ニ從事スルモ耕地少ク、且ツ氣候荒涼ナルガ故ニ收穫少ナク、又製炭業ハ不況以來炭價暴落シ、一日僅ニ三十錢ノ收入アルニ過ギズ。加フルニ昭和六年ノ凶作ハ、村内普通三分作ニシテ收穫皆無ノ所少ナカラズ。翌七年亦不作ナリシヲ以テ、村民ハ全ク食料ニ窮シ、七年八月ノ調査ニ依レバ、大字役内ニ於テ蕨ノ根ヲ常食トスル者十二戸、馬鈴薯、南瓜、雜穀ヲ常食トスル者三十戸、辨當ナキ爲缺席スル兒童七名、電燈料未納ノ爲、消燈セラレタルモノ二十四戸ニ及ブ慘狀ナリキ。

林道開設事業ノ實施

秋田營林局ハ速ニ此ノ慘狀ヲ救濟スル必要ヲ認メ、林道開設費六千二百二十四圓ヲ掲上シ、牛馬道、延長二千八百米突ヲ築設スル計畫ヲ立テ、昭和七年十月工ヲ起シ、同十二月之ヲ完成セリ。

事業實施ノ効果

本事業ノ實行ニ依リ、使役セル地元民ハ人頭數三百十七名、延人數六千八百七十五人ニシテ、支拂ヒタル賃金總額ハ五千二百八十五圓ニ及ベリ。即チ平均一人ノ所得ハ十六圓六十六錢ニシテ、之ヲ平均一戸當ニ換算スレバ、出役者戸數百戸ナルヲ以テ平均五十二圓八十五錢トナリ、住民生活ニ著シキ効驗アリタルハ明カナル事實ナリ。而シテ本事業實行中、縣營及村營救農事業相次デ起工セラレタルヲ以テ、其ノ區分明カナラザルモ、兩者相俟テ生ジタル影響ヲ納稅關係ニ見ルニ、本村々稅納附義務者四百七十八人中滯納者四百四十七人金額實ニ八千八百圓ニ上リタル所、匡救事業實施後ハ內金額五千七百圓ハ完納セラレ、全ク衣食ニ窮セル戸數六十戸ハ減ジテ十五戸

トナリ、蕨粉又ハ馬鈴薯等ヲ常食トセル者ノ如キハ皆無トナレリ。

其三 國有林野砂防設備事業ノ事例

一、盛山外一國有林砂防設備ノ事例(寫眞參照)
事業ノ實施

高知縣幡多郡下川口村盛山外一國有林内土砂崩壞甚ダシキ箇所ニ對シ、高知營林局ハ匡救事業ノ一トシテ、經費一万三千五百四圓ヲ以テ、練積石堰堤ヲ築造スル計畫ヲ立テ、昭和七年十月ヨリ事業ニ着手シ、翌八年三月ニ至リ竣功セリ。本事業ニ使役セル地元民ハ人頭數二百十名ニシテ此ノ延人夫數ハ一万一千三百八十人ナリ。而シテ之ニ支給シタル勞銀ハ、八千九百九十五圓餘ナルヲ以テ、平均一人ノ所得額ハ四十二圓餘ノ多キニ上レリ。右ノ外事業材料品トシテ必要ナル藁八百束、繩二十五束、松炭百六十五俵其他合計三百三十一圓餘ヲ地元村ヨリ買上ゲ使用セリ。

實施ノ効果

本事業ノ實施ニヨリ失業ニ苦シメル地元民ハ就業ノ機會ヲ得、確實ニ現金ヲ收得シ、以テ生活上ノ脅威ヲ免レタルハ著シキ効果ナリ。元來當地方民日常生活ノ賣買ハ、皆盆、暮二回拂ノ掛賣ヲ爲ス習慣ナルガ、大正九年本地方ニ於ケル大水害以來、其ノ仕拂ニ窮セザル者殆ントナク、殊ニ

不況以來ハ窮迫一層加ハリ、全ク仕拂ヲ爲サザル者少ナカラズ。昭和七年舊盆ニ於ケル商店ノ集金高ハ、掛賣代金ノ僅ニ二割乃至三割ニ過ギズ、商人ハ代金ノ回收不能ナル爲掛賣ヲ濫ルニ至リシハ勿論ナリ。依テ本事業實行中ハ、一定ノ商店ト特約ノ上物資ヲ供給セシメ、其ノ代金ハ毎月ノ賃金ヨリ差引キ、完済セシムル方法ヲ採リタルト、一方出役者各自亦延滞セル代金ノ仕拂ニ努メタル結果、商店ノ代金回收率ハ著シク良好トナリ、舊年末ノ勘定期ニ於ケル集金高ハ、掛賣代金ノ五割乃至六割ニ上リ、窮乏ヲ極メタル地方民ノ生活上ニ、復活ノ曙光ヲ認ムルニ至レリ。次ニ醫師藥價ノ滞納額亦事業實施後ハ、其ノ五割乃至六割ノ支拂ヲ見タリト云フ。

二、立谷澤川砂防設備ノ事例

位置及村勢概要

本事業ハ山形縣東田川郡立谷澤村國有林内ニ施行セルモノニシテ、同村字瀬場及大中島ハ地元部落ナリ。其ノ戸數六十六戸、人口五百十五人ニシテ田約四十町歩、畑十町歩、山林約十町歩ヲ有スルモ、本村ハ有名ナル月山ノ北麓ニ位シ、氣候荒涼、積雪丈餘ニ達シ、冬季約五ヶ月間ハ積雪ニ覆ハレ、且地味瘠惡ナルヲ以テ其ノ收穫ハ平野地方ノ半額ニ過ギズ、從テ年々約百五十石ノ移入米ヲ必要トス。又民有山林ノ如キハ立木悉ク伐採セラレ、荒廢ノ状態ヲ呈セリ。尙村民ノ負債ハ約二萬圓アリテ各戸平均三百圓ニ上レリ。元來本部落民ハ農ヲ主業トスルモ、唯一ノ副業ハ製

炭ニシテ、國有林ヨリ其ノ原木ヲ買受ケツ、アリ。然ルニ近年炭價ノ暴落ニヨリ、一大打撃ヲ受ケタルノミナラズ、拂下代金ヲ立替ヘタル薪炭問屋ニ、納付スベキ製品ハ價格ヲ抑制セラレ、村民ハ一層ノ疲弊ヲ加ヘタリ。從テ税金、電燈料、借金ノ利子等滞納セル者多ク、財産ノ差押、點燈中止ノ如キハ村内普通ノ事柄ニシテ、敢テ怪シム者ナキ状態ナリ。

砂防工事ノ實施

秋田營林局ハ匡救事業トシテ本國有林ニ對シ、經費一万七千六百六十四圓ヲ以テ石堰堤及山脚保護工事ヲ計畫シ、昭和七年九月工ヲ起シ、同十二月中旬ニ至リ竣功セリ。

工事實施ノ効果

本事業ニ使役セル地元民ハ、人頭數百八十二名、延人數五千八百七十七人ニシテ、支拂ヒタル勞銀ハ七千五百圓ニ及ベリ。即チ平均一人ノ所得ハ四十圓餘ニ上レリ。

是等勞銀ノ投下ガ涸渴セル地元民ノ生活上ニ多大ノ利益ヲ齎シタルハ他ノ事例ト同様ナルモ、本村ニ於ケル税金滞納額ハ實ニ一万六千餘圓ノ多額ニ上リシガ、本事業實施後ハ内六千餘圓ハ納入済トナレリト云フ。

三、淺瀨石川筋砂防設備ノ事例

位置及荒廢ノ狀況

淺瀨石川ハ青森縣十和田連峯ニ其源ヲ發シ、青森縣ノ米產地タル黒石平野ヲ横斷シ、其ノ流路十數里ニ及ビ、水田數百町歩ノ灌溉用水ニ供セラル。然ルニ近年水量減退シ、耕作時季ニハ沿岸各町村民、用水ノ爭奪ニ没頭シ、屢々流血ノ慘ヲ見ルコトアリ。而シテ其ノ上流ニ位スル國有林ハ到ル所崩壞甚ダシク、出水ノ都度流下スル土砂ハ實ニ夥シキ量ニ上ル。就中支流井戸澤上流ノ國有林ハ傾斜急峻ニシテ、全山一ノ岩石ナク、表土ハ輕鬆ナル火山灰ナルヲ以テ、缺壞續出シ下流タル井戸川部落十三戸ノ如キハ出水ノ都度床上迄泥土侵入シ、水田亦土砂ニ埋没セラル、慘狀ヲ呈シ、到底放置シ得ザル状態トナレリ。

砂防設備ノ實施

昭和七年九月青森營林局ハ本箇所ニ對シ、匡救事業費ヲ以テ砂防設備ヲ行フ計畫ヲ立テ、經費七千二百二十九圓ヲ掲上シ、三箇所ニ石堰堤ヲ築設ノ工事ヲ開始セリ。工事ハ七年十月ニ着手シ同年十二月ニ至リ完成シ、此ノ間使役セル人頭數ハ三百四名、延人數五千二百二十二人ニシテ、支拂ヒタル勞銀ハ五千六百九十八圓ニ達セリ。即チ平均一人ノ所得額ハ約十九圓ニ當レリ。

事業實施ノ効果

石堰堤ノ築設ニ依リ河床勾配ヲ緩和シ、土砂ノ缺潰流下ヲ防止シタル結果、下流住民ガ水害ノ脅威ヲ免レ、歡喜セルハ勿論ニシテ、又從來悲慘ナル生活ヲ續ケタル村民ハ本事業ニヨリ得タル賃

金ヲ以テ、政府拂下米ヲ買入レ、或ハ滯納セル租税ヲ納付シ、又ハ負債ノ整理ニ當ツル等、久シク不況ニ呻吟セル村民ニ更生ノ曙光ヲ認ムルニ至リシハ沒スベカラザル効果ナリト認ム。

其四 國有海岸林砂防設備事業ノ事例

一、能代港町國有海岸林砂防設備ノ事例(寫眞参照)
町民疲弊ノ狀況

能代港町ハ秋田縣山本郡米代河口ニ位シ、古來木材ノ集散地トシテ知ラレ、機械製材業ノ發達ニ伴ヒ急激ナル發展ヲナシ、戶數四千五百七十餘、人口二万三千七百餘ヲ有シ、同縣ニテハ秋田市ニ次グ大都市ナリ。然ルニ數年來ノ外材壓迫ト、一般不況ノ爲木材價格ノ暴落トナリ、延テ製材工場ノ縮少、或ハ製材ヲ極度ニ制限スルノ己ムナキニ至リ、木材ヲ資源トスル各種工業ハ、甚大ナル打撃ヲ被リ、職工人夫ノ解僱ハ勿論、他ノ職業ニモ波及セル結果、失業者日ニ増加シ、最近ニ於テハ月平均十五日就業シ得ルモノハ、上ノ部ニ屬シ其月收十五圓内外ニ過ギズ、家賃、電燈料等約五圓ヲ控除スルトキハ、十圓内外ヲ以テ一家五六口ヲ糊セザルベカラザル慘狀ニアリ、從テ電燈料未納ノ爲メ斷線セラレタル者、或ハ家賃不拂ノ爲立退ヲ迫ラレシ者等少ナカラザル狀況ナリ。殊ニ昨七年八月四日ヨリ三日間ニ亘ル稀有ノ大洪水ハ、耕地ニ氾濫シテ收穫ノ激減ヲ來タシ、皆無トナレル者三十戸ニ及ビ、能代町附近ニ於ケル農家ノ損害ハ莫大ナル額ニ上レリ。又漁業者ハ發動機船ノ發達ノ結果近海漁獲減少シ、地引網人夫ノ如キハ、平均一日ノ收入僅ニ二十錢ニ過ギズ、以テ一般疲弊困憊ノ狀推シテ知ルベキナリ。

匡救事業ノ實施竝ニ効果

同町附近ノ海岸ハ飛砂ノ移動烈シク、森林、耕宅地ヲ埋没シ被害激甚ナルヲ以テ、從來ト雖應急施設ニ努メツ、アリタル所ナルガ、今回時局匡救事業ノ一部トシテ、同町及隣村榑村地内ノ國有海岸林内飛砂地ニ對シ、大規模ニ砂防設備事業ヲ實施スルノ計畫ヲ樹テ、九月九日ヨリ事業ニ着手セリ。當日ハ九月ノ節旬ナリシモ、出役者陸續トシテ參集シ來リ、町村長又ハ方面委員ノ貧困證明書ヲ持參シタルモノ百八十三名ノ多數ニ上リ、各自困窮ノ實情ヲ訴へ出役ヲ嘆願スル者多カリシカバ、能代營林署ハ當初百五十名内外ヲ使役スル豫定ヲ急ニ變更シ、尙護岸工、造林小屋建築等比較的、材料費ヲ要スル事業ヲ中止シ、可成多數ノ失業者ヲ收容スルニ努メ、遂ニ一日五百四十名ノ男女ヲ使役スルニ至レリ。

斯クテ出役人頭數男五百九十三名、女二百四十九名計八百四十二名ニ及ビ、此延人數一万八千三百二十五人、支拂勞銀二万七千九百七十七圓ニ達シ、平均一人ノ所得ハ十二圓八十二錢餘ニ當レリ。勞銀トシテ支拂タル前記金額ノ外、簀、藁、麥稈等事業材料品トシテ、附近町村ヨリ購入セル數量金額ハ相當多額ニ上リ、實三千七百七十六枚金額二千五百六十八圓、稻藁四万一千四百三十五束

金額二千六百七十三圓、麥稈千三百束金額八十七圓、合計五千三百二十八圓餘ニシテ納入區域ハ隣接東雲村外七町村ニ及ベリ。是等ノ材料ハ從來農家ニ於テハ、燃料又ハ肥料トシテ使用スル外、差シテ價值アルモノニ非ザリシニ、今回砂防事業ノ實施ニヨリ、何レモ豫期セザル收入ヲ得タルモノナリ。

本事業ノ總經費ハ一万七千七百四十三圓ニシテ、内救濟ニ關係ナキ經費ハ僅ニ千九百圓ニ過ギズ、殘餘ノ一万五千八百四十餘圓ハ總テ救濟ニ使用セラレタルモノナリ。然ルニ出役人夫數意外ニ多ク、且ツ積年ノ疲弊甚シキ爲、特ニ顯著ナル効果ヲ期待シ得ザルモ、事業實施後ノ納稅成績ハ、滯納者五百八十九人ノ内六十八人ヲ減ジ、未納額千七百六十七圓ノ内五百三十圓ハ納入済トナリ、缺食兒童數六十二人ハ四十三人ニ減少セリ。又能代營林署ニ於テ雜貨商、米穀商、味噌醬油商等主要商店六ヶ所ニ於テ商況ヲ調査セル所ニ依レバ、匡救事業實施後ハ、商品ニヨリ一割乃至二割五分餘賣上金額ヲ増加セルモノアルモ、金額ハ大體事業前後ニ大差ナク、只掛賣漸次減少シ現金賣買増加セリト云フ。尙本事業ノ實施ニ依リ、勞働者ハ當面ノ失業苦ヲ免レ、生活上ノ脅威ヲ緩和セル直接ノ効果ニ至リテハ甚ダ大ナルモノアリシヲ認ム。

二、村松村國有海岸林砂防設備ノ事例(寫眞參照)

茨城縣那珂郡村松村國有海岸林ハ、太平洋ニ面スル一帯ノ砂地ニシテ飛砂ノ被害甚シキ爲、從來

ト雖モ砂防植栽ヲ實行セル所ニシテ、其成績極メテ良好ナリ。今回匡救事業ニ依リ二万六千五百米突ノ砂防垣ノ新設、及面積二十九陌ノ砂防植栽ヲ實施スル計畫ヲ立テ、昭和七年九月ヨリ事業ニ着手セリ。本事業ノ總經費ハ二万四千五百七十一圓ニシテ使役セル人夫頭數ハ三百五十二人、此ノ延人數八千四百七十八人ニ對シ、勞銀五千七百六十九圓ヲ支拂ヒタリ。即チ一人ノ所得賃金ハ十六圓餘ニ當レリ。本事業ハ其規模ノ大ナリシヲ以テ、之ガ實行ニ伴フ地方民救濟上ノ効果ハ、意外ノ方面ニ波及シ、且廣範圍ニ亘レルモノアリ、而シテ地元部落民ガ本事業施行ノ爲、近來稀ナル賃金ヲ得テ窮乏ノ極ヨリ救濟サレ、只管國有林事業ノ恩澤ニ感激シツ、アルノ實狀ニ付テハ姑ク措キ、以下間接ニ本事業ノ餘澤ニ霑ヒタル事例ニ付述フレバ左ノ如シ。

國有造林地々元民ノ救濟

本事業實施ノ確定スルヤ、其ノ準備事業トシテ附近國有造林地ニ於テ間伐ヲ實行シ、杭木ヲ製作シ又竹材ノ一部ヲ國有林ヨリ伐採シタル爲、久シク金錢收入ヲ得ザリシ地元民ハ、之等ノ調査、伐倒、玉切、皮剝、山出、結束等ノ勞銀ニヨリ、意外ノ收入ヲ得タリ。之ガ延人夫數男女合計一千人此賃金七百五圓ニ及ベリ。

農作物收納ニ及ボシタル影響

村松村海岸砂防地附近ノ部落民ハ、特ニ農閑期ニ出役センコトヲ望ミ、秋季農作物收納ニ努メタ

ル結果、例年ニ比シ約十日間ノ日數ヲ繰上ゲタル程ノ能率増進ヲ示セリ。

廢物利用ニ依ル意外ノ收入

從來農家ハ冬期間薪材ノ代用トシテ風呂焚又ハ湯沸用ノ燃料トシテ使用シ、其ノ殘餘ハ庭先又ハ畑等ニ積ミ腐朽ニ任セタル麥藁、稻藁等ヲ砂防材料トシテ買上ゲタルニ依リ、農家ハ全ク廢物ヨリ意外ノ收入ヲ得タルモノニシテ、是等ノ事業材料品ヲ購入ハ、事業地タル村松村ヲ中心ニ約八里ノ半徑内ノ一市四郡二十六ヶ町村ノ廣範圍ニ亘リ、其購入シタル數量亦莫大ナル額ニ上レリ。即チ稻藁百二十二万七千六百五十束、價格一万一千二百二十四圓、麥稈三十一万三千百五十三束、價格二千九百五十九圓、藪實一万四千五百七十枚價格千二百三十一圓、竹材二万三千二百八十五本價格三百三十五圓、以上合計二万五千七百四十九圓ニシテ地元村タル村松村ノ如キハ、材料納入ニヨリ實ニ四千二百六十餘圓ノ豫期セザル現金收入ヲ得タルモノナリ。

運送業者ノ收入

麥稻藁其他材料品ハ、前記ノ如ク村松村ヲ中心トシ、四方約八里ニ亘ル一市四郡二十六ヶ町村ノ廣範圍ヨリ購入シタルタメ、一般貨物不足ニ惱ミツ、アリタル荷馬車、貨物自動車業者ニ豫期セザル貨物ヲ與ヘ、相當多額ノ運賃ヲ收得セシメタリ。

以上ノ如キ金錢收入ニ依リ、關係各出役者ハ日用品、學用品ノ購入ヲナシ、一部負債及滯納ノ整理ニ使用シ、其ノ効果顯著ナルモノアリ。

三、吹上濱國有海岸林砂防設備ノ事例

位置及現況

鹿兒島縣日置郡吹上濱、東支那海ニ直面セル海岸砂地一帯ノ總稱ニシテ、其ノ區域十一ヶ町村ニ跨リ延長南北七里ニ及ブ。幅最も廣キ所ハ田布施村、伊作町ノ地域ニシテ、東西一里以上ニ達シ、高サ四十尺乃至百尺ノ砂丘前後ニ起伏シ、一度西北ノ強風起レバ、砂塵濛々トシテ飛散シ、到ル所耕宅地ヲ埋没ス。本地ハ古來有名ナル飛砂地ニシテ、舊藩時代ヨリ飛砂防止ニ苦心セル所ナルカ、營林局ニ於テモ年々砂防事業ヲ繼續施行シ來リタルモ、今尙九百餘町歩ノ廣漠タル砂地ヲ存シ、年々飛砂ニ因リ被ル官民有地ノ慘害ハ莫大ナルモノアリ。

本地方ノ村落ハ何レモ海岸ニ接近セルニ拘ラズ、漁業ヲ生業トスル者極メテ少ナク、住民ハ主トシテ農業ニ従事スルモノニシテ他ノ一般ノ例ニ漏レズ甚ク疲弊セルハ勿論ナリ。

砂防設備ノ實施

昭和七年九月匡救事業トシテ、吹上濱一帯ノ町村ニ亘リ、砂防設備事業ヲ計畫セルモ、其ノ狀況太同小異ナルヲ以テ、茲ニハ被害最も多キ伊作町ノ事業ニ付記載スベシ。

伊作町ノ砂地ニ對シテハ、經費四千六百四十八圓ヲ以テ面積三十二陌ノ砂防設備ヲ計畫シ、七年

十一月ヨリ實行ニ着手シ、翌八年二月ニ至リ豫定事業ヲ完成セリ。此ノ間人頭數六百三十二人、延人數六千二百三十四人ヲ使役シ、賃銀三千五百七十八圓ヲ支拂ヒタリ、即チ平均各人ノ所得ハ五圓六十六錢ニ當レリ。元來本地方ノ耕宅地ハ、吹上濱保安林ニ依リ保護セラレ、本林ノ興廢ハ住民ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有スルガ故ニ、砂防事業ニ對シテハ、從來義務的ニ出役シツ、アリタルモノニシテ、勞銀收入ハ敢テ多額ニ非ザルモ、此ノ以外ニ地元町ヨリ買上ゲタル事業材料品亦相當ノ金額ニ上リ、客土用土壤二千九百立方米突價格三千三百三十五圓、杭木七百本百二十六圓、竹五百二十五本百五圓、以上合計三千五百六十六圓ニ上レリ。即チ本事業ノ實施ニ因リ、地元町ニ投下セラレタル現金ハ、七千四百四十四圓ノ多キニ達セリ。

事業實施ノ効果

事業實施ニ因リ表ハレタル影響ハ、町税滯納者三十五人金額百三圓ノ内、十九人金額四十五圓ハ完納トナリ、負債ヲ皆濟セル者十三名、未拂ノ醫療費ヲ完濟セル者七名アリ。又入來部落青年團員ハ舉テ本事業ニ出役シ、各人賃金ノ一部ヲ基金ニ醸出シ、六十五圓ヲ増加セリト云フ。其ノ他一々具體的ニ舉示ノ違ナキモ、町民ノ生活上ニ多大ノ効果アリタルハ疑ナキ所ナリ。

其五 國有造林地撫育事業ノ事例

一、鮫川村國有造林地撫育ノ事例

村民疲弊ノ狀況

福島縣東白川郡鮫川村大字青生野ハ、戶數五十八戶アリ、各所ニ散在シ、鮫川本村ヲ去ルコト遠ク交通頗ル不便ナリ。村民ノ生活程度ハ極メテ低ク、青生野國有林内ニ點綴セル耕地、及國有林内ノ借地ニ耕作ヲ營ミ、辛ジテ生計ヲ立ツル者多ク、極貧者ト認ムベキモノ約三十戶アリ、之等ハ耕地收穫ノミニテハ到底生活シ得ザルヲ以テ、約半年ニ亘ル秋冬季節間ハ、少額ノ薪炭材ヲ國有林ヨリ拂下ゲ製炭ヲナシ、或ハ他部落ノ民有林ニ入り製炭ニ從ヒ、又ハ雜役ニ傭ハルル等悲惨ナル生計ヲ營ミツ、アリ。

撫育事業ノ實施及其ノ効果

昭和七年秋季匡救事業ノ一部トシテ、國有造林地ノ撫育事業ヲ實行セリ。其ノ經費ハ僅ニ七百餘圓ニ過キザリシモ、前記約三十戶ノ貧困者ヲ使役セルニ依リ、一戶當所得額約二十圓ニ達シ、窮迫セル細民ノ生活ヲ緩和セル効果著大ナリ。

元來是等ノ人々ハ豊作ノ年ニ於テモ、四斗入三十俵内外ノ粃ヲ收穫スルニ止リ、僅ニ七、八ヶ月ノ食糧タルニ過ギズ、他ノ四、五ヶ月分ノ食料ハ、常ニ不足ヲ告グルヲ以テ、屢々未ダ成熟セザル青田刈ノ不利ヲ爲シツ、アリタルガ、今回匡救事業ニヨリ豫期セザル現金ヲ得、米麥ノ共同購入ヲ爲シ、尙約二ヶ月分ノ食料ヲ、翌八年ニ繰延ブルノ餘裕ヲ生ジタリ。尤モ事業總經費僅少ナ

リシヲ以テ、一般納税方面ニハ大ナル影響ヲ示サザリシモ、滞納額ハ漸次減少ノ傾向ヲ示セルハ、事實ナリト云フ。

二、田山村國有造林地撫育ノ事例 位置及村民窮乏ノ狀況

岩手縣二戸郡田山村ハ、岩手縣ノ西北隅ニ位シ、秋田縣界ニ接スル寒村ナリ。戸數三百七十、人口二千四百十五人ヲ有シ、村内水田二百八町步、畑二百五十七町步アリ。平年ノ收穫高二千四百石ニシテ、不足ク飯米七百四十五石ハ他ヨリ購入セザルラ得ズ。是等食料ノ不足ハ主トシテ營林署ノ事業ニ依ル勞銀及製炭ニヨル利益ヲ以テ支辨シ、辛フジテ生活シツ、アリ。然ルニ昭和六年度ノ凶作ハ平年作ノ七割減ノ收穫即チ七百二十石ニシテ、二千四百二十五石ノ不足ヲ來セル狀態ナルガ、不況ノ爲村民ハ他ニ勞銀ヲ得ルノ途ナク、只營林署ノ事業ヲ待ツノミナリ。當時ノ悲惨ナル生活狀態ハ、食料トシテ稗又ハ粟ニ芋、南瓜、大根葉、蕪、蓬等ヲ混ジタル糧飯又ハ粥ヲ食シ、更ニ貧困ナル者ハ糧ノミヲ食シ、露命ヲ繋グ有様ナリシヲ以テ、村役場ハ極貧者ニ對シ數回施米セシ所、受給者中ニハ之ヲ價格安ク量多キ稗、粟ト交換シ混食セル者アリ。或ハ出役人夫ニシテ晝食用米ノ前借ヲ、營林署員ニ嘆願スル者アル等、村民ノ窮乏其極ニ達セル狀況ナリキ。

撫育事業ノ實施

昭和七年九月國有造林地撫育面積二百四陌經費六百七十四圓、及官行造林費六百九十七圓ヲ以テ新植十一陌及延長三千九百七十米突ノ步道新設ノ事業ヲ起シ、以テ村民ノ救濟ヲ行ヘリ。之ニ使役セル人頭數ハ撫育事業百五十四人、官行造林事業百九人、合計二百六十三人、延人數撫育千三十三人、官行造林六百四十七人、計千六百八十八人、勞銀合計千百一十一圓ニシテ平均一人當ノ所得ハ、兩事業ヲ通ジ四圓二十二錢ニ當レリ。

事業ノ効果

本村小學校教員ノ俸給ハ、昭和七年四月以降ハ、毎月僅ニ五、六圓ヲ支給シ、他ハ繰延トナスノ己ムナキ窮狀ナリシモ、事業實施後ノ七年十一月ニ至リ、全額支拂ニ復舊セリ。又税金ノ滞納ハ六年度末三千二百二十三圓餘アリシガ、七年度末ニ於テハ二千三百七十三圓ニ減少セリ。缺食兒童數ハ、事業實施前ハ實ニ百五十五名ノ多數ニ上リシガ、實施後ハ五十二名ニ激減セル等村民生活上ニ及ボセル効果ハ顯著ナリ。

其六 苗木ノ購入ガ地方産業ヲ振興セル事例

一、秋田縣山林種苗同業組合ノ例

同組合ハ重要物産同業組合法ニ依リ、大正十一年五月ニ設立セラレ、爾來縣山林會ノ指導ニ依リ、堅實ナル發達ヲ遂ゲ今日ニ至レリ。昭和七年ノ組合員數ハ二百六十二名ニシテ、生産苗木ハ杉ヲ

653
23

主トシ、赤松其他數種ニ及ビ年ニヨリ増減アレドモ、大體八百万乃至一千万本ニ達シ、東北地方各地ニ供給セラレタリ。然ルニ東北地方ノ凶作ニ加フルニ一般財界ノ不況深刻ナルニ及ビ、民間ノ造林事業激減シ、本組合ノ最モ有力ナル販路ヲ失ヒ、廢業スルモノ相次ギ、其ノ苗圃ノ如キモ經營費ヲ極度ニ節約シ、僅ニ餘喘ヲ保ツノ窮狀ヲ呈セリ。

此ノ秋ニ當リ匡救事業トシテ、公有林野官行造林事業ノ増植ヲ實施セラレ、苗木ノ需要激増シ、本組合ヨリ青森、秋田、東京三營林局ニ納入セル數量ハ實ニ八百万本ノ多數ニ上リ、此ノ代金六万三千餘圓ノ巨額ニ達シ、組合員中少ナキハ二十二圓ヨリ多キハ一万圓以上ノ收入ヲ得タリ。多年不況ニ沈淪シ、斯業ノ繼續サヘ危ブマレタル組合員ハ、初メテ蘇生ノ思ヲナシ、負債ヲ返済シ、納税ノ義務ヲ果シ、餘財ハ經營費ニ當テ再ビ勇躍シテ業務ニ精勵スルニ至レリ。

以上ハ一見組合員ノミノ利益ナルガ如キモ、苗木ノ掘取荷造人夫トシテ就業セル農民ハ、延人數六千餘人、勞銀二千餘圓ノ多キニ上リ、又梱包材料トシテ繩苴等ノ購入セラレタルモノ四百圓ニ及ビ、苗圃附近ノ農家ヲ害スニ至リタルハ之亦看過シ得ザル効果ナリト認ム。

其七、匡救事業ガ農山村ノ自力更生ニ資セル事例

一、水田開墾ニ成功セル例

岩手縣西磐井郡嚴美村大字五串字祭時部落十五戸ハ、何レモ堀立小屋ニ居住スル無資力ノ人々ナルガ、一ノ關營林署ノ施行セル各種ノ匡救事業ニ出役シ、賃金合計四百五十餘圓ヲ得タリ。依テ之ヲ資金トシ、新田ノ開墾ヲ計畫シ、昭和七年十一月起工シ、翌八年四月迄ニ一町三反五畝歩ノ美事ナル水田ヲ開拓シ、本春插秧ヲ爲シタル所、既耕地ニ匹敵スル良好ナル成績ヲ示セリ。右十五戸ノ住民ハ、何レモ匡救事業ノ恩澤ニ感奮シ互ニ相勵マシ、殆ント晝夜兼行ノ努力ヲ拂ヒ、優ニ工費二千圓ニ相當スル開田ニ成功シタルモノニシテ、尙引續キ六町歩ノ開拓ヲ計畫中ナリ。本部落民ハ全ク資力ナキニ拘ラズ、自力ヲ以テ斯ル一大事業ニ成功シタル爲、自力更生ノ模範トシテ地方一般ノ推賞ヲ受ケツ、アリ。

二、婦女子ノ組織セル自力更生團體ノ例

岩手縣西磐井郡山目村大字赤荻字上臺苗圃ハ、匡救官行造林用苗木養成ノ爲其ノ事業分量著シク増加セシガ、之ガ人夫ハ専ラ地元赤荻ノ婦女子ヲ使用スルヲ以テ、其ノ收入亦著シク増加セリ、然ルニ是等従業婦女子百三十名ハ、匡救事業ノ趣旨ニ感激シ、此ノ際進ンデ自力更生ノ實ヲ舉ゲザルヘカラズトナシ、本年三月愛林勤勞會ナル團體ヲ組織シ、戊申詔書ヲ奉讀シ、之ヲ遵奉スルコトヲ誓ヒ、各自勤勞ノ實踐躬行、勤儉貯蓄ノ實行、陋習打破改善等ニ努メタル結果、既ニ百四十二圓ノ貯蓄ヲ爲セリ。尙將來ハ獨自ノ産業組合ヲ組織セムト計畫シツ、アリ、其ノ活動見ルベキモノアリ。本會ハ自力更生ノ目的ヲ以テ婦女子ノ組成セル特異ナル團體トシテ、地方一般ノ注

意ヲ引キツ、アリ。

三、共同貯金組合ノ例

長崎縣北松浦郡中野村古江免部落ハ平戸島ニ在リ、半農半漁ノ海岸部落ニシテ、戸數僅ニ三十戸ニ過キズ。打續ケル不況ノ爲、部落民ノ疲弊困憊セル狀ハ他ノ例ト同様ナリ。然ルニ七年秋季ヨリ匡救事業トシテ造林地面積十九陌ノ撫育事業開始サレ、本部落民之ニ出役シテ賃銀五十六圓ヲ得タルラ動機トシ住民ノ氣力頓ニ加ハリ、自力ヲ以テ窮狀ヲ打開セムトスル氣運勃興シ、新ニ自力更生共同貯金會ナルモノヲ設ケ、國有林事業ハ勿論、薪材共同販賣、末廣鱒ノ製造等苟シクモ住民共同ノ事業ヨリ得タル收入ハ、其一部ヲ積立ツルコト、シ、不取敢撫育事業ニヨリ得タル勞銀ノ一部ヲ釀出シ二十餘圓ヲ積立テタリ。本會ハ創立日淺ク金額殆ント云フニ足ラザルモ、斯ル氣運ヲ醸成シタルハ慶賀スベキ事ナリト信ズ。

653

23

(第一號表)

昭和七年度 匡救事業 實行成績表

府縣	公有林野官行造林事業		國有林林道開設事業		國有林野砂防設備事業		國有海岸林砂防設備事業	
	種類	面積(mha)	種類	延長(m)	種類	面積(m ²) 延長(m)	種類	面積(mha)
德島	更新道	1,611.9	歩道	7,644.4			護岸工	5,400.0
山口	更新道	3,583.2	歩道	7,644.4			護岸工	2,796.0
廣島	更新道	4,773.3	車道及歩道	3,905.8			護岸工	3,445.0
岡山	更新道	2,644.7	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
島根	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
鳥取	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
和歌山	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
奈良	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
兵庫	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
大阪	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
京都	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
滋賀	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
三重	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
愛知	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
静岡	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
岐阜	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
長野	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
山梨	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
福井	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
石川	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
富山	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
新潟	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
神奈川	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
東京	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
千葉	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
埼玉	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
群馬	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
栃木	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
茨城	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
福島	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
山形	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
秋田	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
宮城	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
岩手	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
青森	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0
府縣	更新道	3,648.1	木馬道	3,782.1			護岸工	9,499.0

(第二號表) 昭和七年度匡救事業勞働者數及勞銀調表

地方	公有林野官行造林事業			國有林林道開設事業			國有林野砂防設備事業			國有海岸林砂防設備事業			國有造林地撫育事業		
	人頭數	延人數	勞銀	人頭數	延人員	勞銀	人頭數	延人員	勞銀	人頭數	延人員	勞銀	人頭數	延人員	勞銀
沖繩	七九五	七、四九五	四、〇五七	三三九	一、九三五	一、一〇一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鹿兒島	四、四五六	三五、一三九	二四、三二八	二、〇八八	二、八九八	一六、〇九九	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮崎	三、六七七	二九、八六三	一九、七七一	一、七九四	二、八九八	一六、〇九九	七八七	一九、七四九	一三、六三三	二、〇六七	二七、三三三	二九、九六六	四、六五八	四〇、九四四	二七、五四七
大分	三、〇〇九	一九、〇三四	一三、一六八	六九九	二、〇〇〇	九、三五二	一六〇	六、二八一	八、三三七	—	—	—	—	—	—
熊本	三、七八六	二〇、四五六	一四、三六四	七二二	八、〇五七	六、四六七	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長崎	二、八四〇	一一、二七四	八、六六七	四〇〇	六、九七七	六、一五一	一八八	七、八八八	九、四八八	五三四	五、八〇三	六、九三八	—	—	—
佐賀	一、二一九	九、二七四	七、二六七	三三九	一、八三五	一、三三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福岡	一、七五四	八、六四五	八、〇七三	六九二	七、〇七七	六、一三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
高知	二、一八八	三三、二二三	二五、一一六	一、二八二	三三、八〇〇	一六、七九二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
愛媛	一、八七七	二七、一九三	一九、一〇〇	三七八	四、三五四	三、三三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
香川	二九九	三、二四一	二、四六八	二〇八	二、八〇〇	二、二三四	—	—	—	—	—	—	—	—	—
徳島	一、三五五	一八、七三五	一四、七六八	三九	四、四〇	三、八	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山口	一、七六七	一一、〇一一	七、七一九	八七	五、七	四、六三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
廣島	一、三三七	八、四五三	六、四六七	七〇六	八、七六六	七、五三二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岡山	二、二二三	一三、九三四	九、六九七	三五二	四、四四三	三、九五六	—	—	—	—	—	—	—	—	—
島根	二、九二八	三三、〇八五	一五、七〇五	五九六	九、二四一	六、六二〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鳥取	四、七五四	二八、八九九	一七、九五五	一、〇一一	一、四、四〇〇	一、三三三	八七	一、三、七〇	一、五九九	四二八	一、五七三	九、五三	—	—	—
和歌山	一、一〇〇	九、七七七	九、二〇六	三七七	七、三三七	七、一五七	—	—	—	—	—	—	—	—	—
奈良	一、四五	五、六七	五、〇八	六九	四、四九	四、五〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
兵庫	三、五三三	二四、五四九	一六、八八五	三六八	五、七三三	四、五七五	八五	二、八六八	四、三九九	四八一	三、三四七	三、〇五五	—	—	—
大阪	四、四三	二、六六	二、七八	八一	一、一七一	一、四〇四	—	—	—	—	—	—	—	—	—
京都	五、五五	三、九八七	三、六二〇	八三	一、〇〇一	一、七三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
滋賀	一、〇二八	一、四三三	一、三九〇	一〇〇	一、一〇〇	一、〇五一	一九三	七、七六六	九、一七〇	—	—	—	—	—	—
三重	一、〇二七	一一、一五六	一〇、六八七	四六九	四、五五	五、三三二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
愛知	三、〇三三	三三、〇三八	二、五七九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
静岡	三、〇三三	三三、〇三八	二、五七九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岐阜	一、五五六	一三、九五〇	一〇、九五五	五〇六	五、四四九	五、六四九	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長野	四、九三三	五、三三〇	四、七七五	九九〇	一一、四六六	九、八〇三	四〇一	一三、五四八	一五、八九七	—	—	—	—	—	—
山梨	三二七	一、四八四	一、〇六七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福島	二、五四九	一八、八六七	一三、一四六	三五	二、八三二	二、九七七	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石川	五、四〇	二、五七七	二、五五一	九七	一、〇〇〇	一、一八九	—	—	—	—	—	—	—	—	—
富山	三、四四	一、五二〇	一、四三四	九九	二、〇〇〇	二、四二五	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新潟	三、五〇六	三〇、五三〇	二五、七二五	五二二	四、四二二	三、三九九	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川	二、五二五	九、八三六	九、四九〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東京	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
千葉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
埼玉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
群馬	四、八九	三、四八九	二、八九四	五六七	五、八三三	五、〇〇八	一六七	四、一三〇	五、〇一九	—	—	—	—	—	—
栃木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
茨城	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福島	三、七七一	三三、六六七	二二、〇五三	四〇五	五、六四	四、三四三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山形	四、四四九	三三、七〇四	二二、三二二	一、九〇六	三三、六七七	二四、六五五	八四三	二二、六七一	二六、七四四	六九四	六、八二四	三、九〇四	—	—	—
秋田	八、八三六	九、九三九	六〇、二九九	一、八九三	三九、三三四	二七、〇七六	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮城	七、六三三	五、八四七	三、八四九	一、七三三	二二、五八八	一八、五〇四	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岩手	二、八〇七	一〇、九七一	七、〇八五	二、九三九	三三、八七五	二六、六三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
青森	五、四八	三、三九五	二四、九〇五	三、〇八八	七〇、〇三三	六三、二七七	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一〇九、三三五	八九一、九二二	六四一、七七五	三二、七九五	四四一、七九九	三三三、八八三	七、三八三	三三六、〇七三	三三九、三九九	二四、一八四	二六七、三三一	二四一、一〇三	八四、九九三	六六八、五四八	四七、一五〇

653
23

昭和八年八月十四日印刷
昭和八年八月十八日發行

東京營林局

印刷者
東京市京橋區銀座三丁目四番地
佐藤保太郎

印刷所
東京市京橋區銀座三丁目四番地
株式會社文祥堂

653
23

Faint, illegible text or markings, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

653
23

